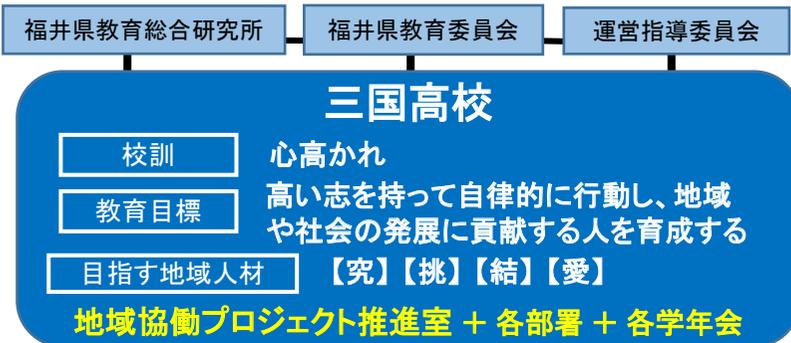


「あったらいいね」をカタチにする！ ～シビックプライドを持ったコミュニティデザイナーを育てる～

【研究開発の背景】

本校では、令和2年度からの新教育目標を「**高い志を持って自律的に行動し、地域や社会の発展に貢献できる人を育成する**」と定めた。これに基づき、「**地域とともにある学校**」として、**地域にある資源を活用して地域活性化に資するプロジェクトを地域人材と協働で実施することを通して、当事者意識を持って地域の未来を創造することのできる人材**を育成する実践的な探究学習を実践することとした。



カリキュラム開発等専門家 | 地域協働学習実施支援員



令和4年度4月の生徒数
(本事業は全校生徒対象)

学科	1年	2年	3年	計
普通科	134	131	129	394

【令和4年度の目標と取組状況】

- 「三高地域魅力化プロジェクト」を推進**
総合探究学習においてすべての生徒が地域探究を実施
- 地域協働協議会『ワクワク未来考場』の実施**
地域探究同好会を立ち上げ、空き家の「吉野家」を拠点として地域の方々との交流活動に取り組む
地元のまちづくり協議会や大学と連携し、各種イベントの企画・運営
- 『三国高校コミュニティデザイナー』の資格認定**
三高地域魅力化プロジェクトの取組み成果に応じて本校独自の資格を認定
- 学校設定教科「三国地域学」の開設**
「三国の文化資源探究」「三国の環境資源探究」で地域をテーマにした発展的な探究学習を実施するためのカリキュラム開発および研究授業の実施



1年空き家活用プロジェクト



2年地域課題解決提言プロジェクト

【三高地域魅力化プロジェクトにおける探究学習の主な流れ】



【地域協働協議会「ワクワク未来考場」の取り組み】

- 【地域探究同好会活動】
坂井市各地区まちづくり協議会と連携して各種のボランティアやイベントに参加
- 【大学と生徒の交流会】
三国町の活性化について東京都市大学や福井工業大学と意見交換



【今年度の成果】

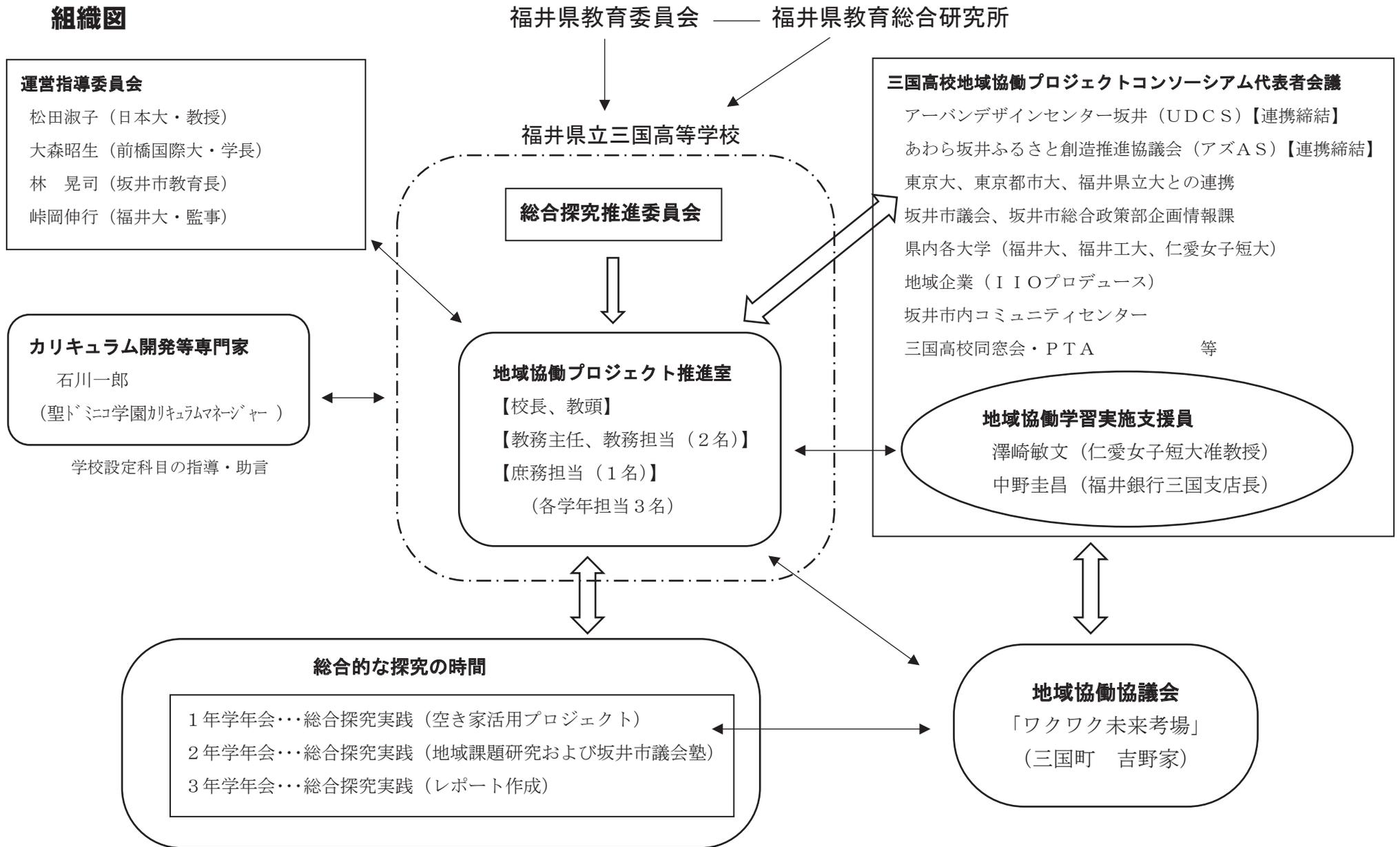
- 地域に対する愛着が深まる
- 多様な人々との協力
- 地域に関する発表の機会の増加

【来年度の課題】

- コミュニティデザイナー資格の認定方法
- 学校設定科目の充実
- 地域探究同好会等の「吉野家」活用

令和4年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）

組織図



巻 頭 言

地域との協働による人材の育成を目指して

福井県立三国高等学校長 富澤宏二

本校が存する坂井市三国町は、福井県の北部、県下随一の大河九頭竜川が日本海へと注ぎ、その南側には、福井県の大穀倉地帯である広大な坂井平野が広がるという豊かな自然環境に恵まれています。そして古くは記紀の時代から三国という名が残されている歴史のある土地です。古来より三国湊は九頭竜川や足羽川などを使った物流の拠点であり、江戸時代中頃に始まった日本海側の港をつなぐ「北前船交易」によって町は大きく発展しました。その繁栄の痕跡は現在でも町内各所に残されています。

本校は明治42年に開校された坂井郡立女子実業学校と大正11年に創設された福井県立三国中学校を前身として、今年度で創立114年目を迎える地域の伝統校であります。本校の校歌の歌詞は詩人三好達治の手によるもので、本校の校訓『心高かれ』はこの校歌からとられています。また、教育目標は「高い志を持って自律的に行動し、地域や社会の発展に貢献できる人を育成する」としています。（本校のスクールポリシー等の詳細は、本冊子の資料やホームページ参照。）

三国高校は、令和2年、文部科学省『地域との協働による高等学校教育改革推進事業』の推進校の指定を受け、教育目標を形あるものにするために、地域にある豊かな資源を活用して、地域活性化に資するプロジェクトを地域人材と協働で実施することを通して、地域の未来を創造できる人材を育成する実践的な探究学習の取り組みを進めて参りました。

総合的な探究の時間における各学年の取り組みを、「三高地域魅力化プロジェクト」と位置づけ、1年生では三国町内の空き家活用プロジェクトの企画・立案・実践に取り組みました。2年生では地元坂井市の様々な課題について探究し、その解決方法を「三高地域魅力化プロジェクト発表会」として、地元坂井市の市会議員の皆さんに提言をいたしました。そして3年生では、2年間の活動を振り返り評価するとともに、後輩たちに伝え、探究の継承を図りました。また、三国の地域についてより深く探究するための学校設定教科「三国地域学」、科目「三国の文化資源探究」と「三国の環境資源探究」を設定しています。令和4年度はいずれの科目でも地域の人や企業との協働によって、三国のまちづくりや文化・環境について学び、課題を探究してきました。さらに地域探究同好会を始めとして、多くの生徒たちが「三国祭」山車曳きボランティアなど様々な行事に参加して、地域と関わりを持ってきました。

現在、我が国では「令和の日本型学校教育」の推進が求められ、子どもたちが「自分で考えて、判断して、行動できる力」を身に付け、生涯にわたって能動的(アクティブ)に学び続けることが期待されています。そして、学ぶことに興味や関心を持った「主体的な学び」、生徒同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じて、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に想像したりする「深い学び」の実現を学校は目指しています。

今年度もコロナ禍の中での事業となりましたが、本校の取り組みが、生徒の「主体的・対話的で深い学び」を引き出す一例となることを期待して、本報告書を作成いたしました。広く関係の皆様にご高覧いただければ幸いです。3年間にわたる本事業の成果をここにご報告し、今後、三国高校そのものが地域の魅力のひとつとなり、地域と一体となって人をはぐくみ、地域社会とともに発展していけるよう、これからも関係の皆様方の御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます、巻頭のご挨拶といたします。

目 次

巻頭言

目 次

第1章 研究開発の概要 1

第2章 三高地域魅力化プロジェクト

2-1 1年生 12

2-2 2年生 17

2-3 3年生 23

第3章 学校設定科目（三国の文化資源探究） 29

（三国の環境資源探究） 35

第4章 地域探究同好会「地究」活動（ワクワク未来考場） 44

第5章 各教科での活動 49

第6章 事業を支援する運営委員会等の報告

6-1 第1回 運営指導委員会 51

6-2 第2回 運営指導委員会 54

6-3 地域協働プロジェクト推進室会議Ⅰ（坂井市からの支援について） 60

6-4 地域協働プロジェクト推進室会議Ⅱ（R5年度について） 61

6-5 地域協働プロジェクト推進室会議Ⅲ（R5年度について） 61

6-6 地域協働プロジェクト推進室会議Ⅳ（R5年度について） 61

第7章 資 料（スクールポリシー、三高 NEWS）

第1章 研究開発の概要（文部科学省提出書類より）

研究開発完了報告書（抜粋）

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 福井県福井市大手3丁目17番1号
管理機関名 福井県教育委員会
代表者名 教育長 豊北 欽一 印

令和4年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和4年4月1日（契約締結日） ～ 令和5年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 福井県立三国高等学校
学校長名 富澤 宏二
類型 地域魅力化型

3 研究開発名

「あったらいいね」をカタチにする！
～ シビックプライドを持ったコミュニティデザイナーを育てる ～

4 研究開発概要

本校では、令和2年度からの新教育目標を「高い志を持って自律的に行動し、地域や社会の発展に貢献できる人を育成する」と定めた。これに基づき、地域との協働による高等学校教育改革推進事業においては、「地域とともにある学校」として、地域にある資源を活用して地域活性化に資するプロジェクトを地域人材と協働で実施することを通して、当事者意識を持って地域の未来を創造することのできる人材を育成する実践的な探究学習のためのカリキュラムを開発する。

5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している ・ 開設していない
- ・教育課程の特例の活用 活用している ・ 活用していない

※学校設定科目は令和3年度より開設

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
松田 淑子	日本大学生物資源科学部諸課程・教授	学校教育、探究学習
大森 昭生	共愛学園前橋国際大学・学長	学校教育、地域協働プログラム
林 晃司	坂井市教育委員会・教育長	関係行政機関
峠岡 伸行	福井大学監事	企業支援、人材育成

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名
福井大学国際地域学部	岡崎 英一 (学部長)
福井大学地域創生推進本部	末 信一郎 (本部長)
福井工業大学	掛下 友行 (学長)
仁愛女子短期大学生生活科学学科	禿 正宣 (学長)
坂井市議会	前田 嘉彦 (議長)
坂井市総合政策部企画情報課	三上 寛司 (課長)
あわら坂井ふるさと創造推進協議会 (アズAS☆)	森 之嗣 (会長・あわら市長)
アーバンデザインセンター坂井 (UDCS)	土井 祥子 (チーフディレクター)
みくに地区まちづくり協議会	高森 重利 (会長)
地域企業 (I I Oプロデュース株式会社 他)	伊藤 俊輔 (I I O代表取締役社長) 他
県外高等学校	鈴木 康之 (静岡県立熱海高等学校長)
福井県内課題解決型学習モデル開発事業校	浅井 裕規 (福井県立鯖江高等学校長)
坂井市内各中学校	荒川 誠 (あわら市金津中学校長)
一般社団法人BEAU	小原 涼 (代表理事)
三国高校同窓会	大和 久米登 (同窓会長)
三国高校PTA	姉崎 健司 (PTA会長)

8 カリキュラム開発専門家, 海外交流アドバイザー, 地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	石川 一郎	聖トミコ学園・カリキュラムマネージャー	雇用関係なし
地域協働学習支援員	浜田 剛	UDCSサブディレクター	雇用関係あり
地域協働学習支援員	澤崎 敏文	仁愛女子短期大学・准教授	雇用関係なし
地域協働学習支援員	中野 圭昌	福井銀行三国支店・支店長	雇用関係なし

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程									
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導委員会	1回						1回			

(2) 実績の説明

- ・継続的な取組を行うための教員の人事面の配慮として、加配の計画
- ・運営指導委員会の運営および指導・助言
- ・地域人材の継続的な連携の支援および3者相互連携の強化
- ・三国高校とアーバンデザインセンター坂井 (UDCS) の間で相互連携協定締結

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コミュニティーデザイナー認定											1回	
総合探究発表会			1回					1回	1回		1回	
学校設定科目	2回	1回	2回			1回		2回				
地域探究同好会 ワクワク未来考場	1回	1回	2回	4回	2回	8回	2回	3回		1回	2回	1回
教科探究学習		この期間の 授業で実施										

(2) 実績の説明

①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

(ア) コミュニティーデザイナーの認定

本校では生徒が三国という地域の住民としての意識を持って、地域の未来を創造することのできる実践的な探究学習に取り組むことで、この地域の将来の地域人材として活躍するという意識を持ったコミュニティーデザイナーの資格認定制度の開発に取り組んだ。今年度は、昨年度見直した認定方法を踏襲し、3年生のみ対象とし、ループリックの結果をもとに学年会で協議して認定した。

(イ) 総合探究発表会

総合的な探究の時間での各学年の取り組みを「三高地域魅力化プロジェクト」という名称で行っている。

1年生では6月下旬にあわら坂井ふるさと創造推進協議会（アズAS☆）の協力を頂き、生徒の職業意識を高める催しを行った。また、三国町内の空き家活用プロジェクトを企画立案し、2学期末に実際の空き家を使って地域住民に活用方法を紹介する活動に取り組んだ。今年度も11月上旬にコンソーシアム団体のアーバンデザインセンター坂井（UDCS）とあわら坂井ふるさと創造推進協議会（アズAS☆）・福井銀行・みくにまちづくり協議会の参加をいただき、生徒の考えた空き家活用アイデアの発表会を実施した。また、12月中旬には4クラスがそれぞれ1つの空き家を使い、自分たちの考えた活用方法を実践した。

2年生では地域の様々な問題について探究し、問題の解決方法を地元公共団体に提言する取り組みを行った。今年度は2学期に坂井市役所職員に来校していただき各グループの提案についてアドバイスをいただき、それを基にアイデアをブラッシュアップしていった。そして2月に坂井市議会議員8名に来校していただき、発表会を行い、高評をいただいた。

3年生では2年次までのプロジェクトの成果を研究レポートにまとめた。

(ウ) 学校設定科目

「三国の文化資源探究」について

2年生Ⅱ系列文系の2クラスの生徒が、1学期は「三国の伝統文化」・「三国の食・物産」の分野、2学期は「三国の寺院・古墳・建築物等」・「三国の作家や芸術家」の分野、3学期は「三国のイマを盛り上げる」という新たな分野に関して、三国地域の様々な文化資源を取り上げながら、講演や見学、体験を通して探究学習に取り組んだ。

3年生Ⅱ系列文系の2クラスの生徒は、2年次に学習した内容を生かして「三国

の文化資源 プロモーションビデオ」を作成した。2年生の3学期から準備を始め、1学期は動画の作成を中心に行い、2学期は作成したPR動画をもとに2年間の探究活動についてクラス内発表会を行った。そこで評価が高かった各クラス2グループが最終発表会で外部の方や2年生に対して発表を行った。

「三国の環境資源探究」について

3年生Ⅱ系列理系の選択者（6名）と2年生Ⅱ系列理系の選択者（18名）が、三国および坂井・あわら地域の環境資源について、各単元で「講義、見学・実習、レポート・発表、ふりかえり」をサイクルとして学習を進めた。

3年生は、4月から5月は「エネルギー」として、再生可能エネルギー等について北陸電力（株）福井支店の方から講義を受け、三国太陽光発電所と三国風力発電所を見学した。6月には「水の浄化」として福井県下水道公社の方から講義を受け九頭竜川浄化センターを見学、6月下旬から9月にかけては「海洋環境保全」として福井海上保安署の方から講義を受け海上保安署と巡視船を見学した。さらに9月下旬から10月は「マイクロプラスチック」について福井大学の繊維・マテリアル研究センター教授から講義を受け、マイクロプラスチックの観察・抽出・分析の実験を行った。11月は「水族館」として、海洋生物の調査、保護・繁殖活動について越前松島水族館館長から講義を受け、水族館のバックヤード見学をした。11月下旬からは1月は「課題研究」として、これまで学習した内容に関連する各自のテーマで探究活動と発表を行った。発表会には2年生理系の生徒も参加して質疑応答を行った。

2年生は、4月から6月は「エネルギー」、9月から11月は「水の浄化」、また12月から3月は「農業」として、地域の農業の特徴や新しい取り組みについて福井県立大学生物資源学部教授の講義を受け、同大学あわらキャンパスの研究施設を見学、さらに地域の先進農家からグループインタビューをした。1単位で3年生の半分の時間数であったが、単元ごとの探究を進め発表した。

(エ) 地域探究同好会（ワクワク未来考場の活動）

一昨年度から地域との協働活動をする生徒の組織として地域探究同好会「地究」を設立し、ワクワク未来考場として活動を行っている。今年度の特徴は、地域から要請のあったイベントだけでなく、グループで自主的に取り組む地域探究活動を行った点である。

【地域から要請のあった主なイベント】

- 5月 三国祭ボランティア（山車曳き、法被でハッピー写真撮影など）
- 6月 三田国際学園中学校との交流（オンラインで「三国」について意見交換）
- 9月 三田国際学園中学校との交流（修学旅行で滞在。三国での探究活動を支援）
- 10月 ハッピーハロウィンブース設置（小学生にクイズを出し、お菓子を提供）
みくに大好きプロジェクト会議（現在も継続中）
（みくにまちづくり協議会の方と三国を盛り上げる案を協働して考えていく）
三国歴史散策（ガイドの方と三国町内の歴史的建造物や史跡を訪問する）
- 12月 坂井地区キャリア教育推進フォーラム参加
（坂井高校にて探究活動・同好会の活動について発表）
- 2月 坂井市まちづくりカレッジ最終発表会参加

【自主的に取り組んだ活動】

- 7月～ 以下の3つのグループに分かれ活動を継続中。
・メモリーハンティング ・えちぜん鉄道応援プロジェクト ・三国祭プロ養成
- 11月 坂井地区探究活動交流会の開催
（坂井地区の4つの高校の生徒が三国高校を会場に、各学校の探究活動について発表し、意見交換会で情報を共有）

(オ) 教科探究学習

家庭科による「三国の伝統文化（刺し子）」の授業を、1年生の5～6月に実施し、作品を7月の保護者会で教室前に展示した。

(カ) 学校訪問（先進地見学）

2月に本校の教諭2名が昨年まで地域魅力化型の指定校であった岡山県の和気閑谷高校を訪問し、これまでの特色のある取組や研究指定終了後の状況についてご教授いただいた。また、別の教諭2名が島根県立矢上高校の情報共有会に参加し、探究活動について参加各校のこれまでの実践における課題を共有した。

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け
(各教科・科目や総合的な探究の時間、学校設定教科・科目等)

(ア) 各教科・科目

地域人材を活用した授業に取り組んだ。

(イ) 三高地域魅力化プロジェクト

- ・1年次の総合的な探究の時間において、三国の地域課題を学ぶ活動を通して得た知識を活かして、三国の空き家活用を実践する取組みを行った。
- ・2年次の総合的な探究の時間において、地域の様々な課題について、コンソーシアム団体の協力を得ながら提言案をまとめ、坂井市市議会議員に提言案を発表した。

(ウ) 三国地域学

令和3年度より2年生から段階的に学校設定科目「三国地域学」を開設し、各科目との関連を深めた。

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

令和3年度に2・3年生Ⅱ系列文系コースで開講された学校設定科目「三国の文化資源探究」に加え、本年度はⅡ系列理系コースで学校設定科目「三国の環境資源探究」が開講され、理系教科、科目を横断した探究的な学びを進めた。

④地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメント推進体制

(ア) 地域協働プロジェクト推進室

校長、教頭、教務主任および事務局6名の推進室を設置する。

(イ) コンソーシアム団体との連携

推進室が総合的な探究の時間の企画、学校設定科目の企画開発、地域探究同好会の活動計画の立案において、地域協働学習実施支援員と協力し、各コンソーシアム団体との連絡調整を行う。

⑤学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

(ア) 三高地域魅力化プロジェクト

各学年会の教員が中心になって運営し、それぞれの事業でそれぞれのコンソーシアム団体と連携協働し、プロジェクトを推進した。

(イ) 地域探究同好会

担当教員2名で拠点となる空き家を活用し、地域住民との交流事業を推進した。

⑥カリキュラム開発等専門家、海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の学校内における位置づけについて

(ア) カリキュラム開発等専門家

令和3年度から実施している三国地域学の科目の一つである「三国の文化資源探究」及び令和4年度に実施する「三国の環境資源探究」について、実施方法や各教科の横断的な学習の進め方についてアドバイスを受ける。

(イ) 地域協働学習実施支援員

三高地域魅力化プロジェクトでの1年生の「空き家活用プロジェクト」や2年生の「坂井市の課題解決の提言」に関して、各コンソーシアム団体との連絡調整を行う。

- ⑦学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて
- (ア) 教員研修会
外部有識者(運営指導委員, カリキュラム開発専門家)による総合探究の意義や、カリキュラムマネジメントの研修会を実施した。
- (イ) 職員協議会
地域協働プロジェクト推進室会議を定期的開催し、進捗状況の共有を行う。また、職員協議会で取り組みの進捗状況を報告し、取り組みの共有し課題を把握した。
- ⑧カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について
- (ア) 三高地域魅力化プロジェクト
1年生は東京都市大学建築都市デザイン学部およびアーバンデザインセンター坂井(UDCS)との協働を中心に事業を推進した。
2年生はアーバンデザインセンター坂井(UDCS)、坂井市議会および坂井市役所との協働によって事業を推進した。
3年生は研究レポートをまとめるため、レポート作成の方法を学んだ。
- (イ) 三国地域学
カリキュラム開発専門家のアドバイスを受けて、地元企業や地元関係団体と連携している。
- ⑨運営指導委員会等、取組に対する指導助言等に関する専門家からの支援について
本年度は指定事業の最終年度を迎えたこともあり、特にこれまでの3年間の取組について意見や高評をいただいた。来年度に向けて自走して活動を進めて行くにあたり、継続すべき活動や改善・廃止すべきものについて委員の方々から貴重なアドバイスをいただくことができ、来年度からの新たな地域との協働による探究活動の企画立案に反映させていく予定である。
- ⑩類型毎の趣旨に応じた取組について
- (ア) 三国の文化資源探究(令和3年度より)
国語科、地歴公民科、英語科、芸術科、家庭科の教員が協力し、三国の伝統・文化・文学・芸術・歴史・食文化等について探究学習を実施した。
- (イ) 三国の環境資源探究(令和4年度より)
理科、数学科、保健体育科の教員が協力し、地域の企業や地元大学と連携してエネルギー・環境保全・海洋生物・農業等について探究学習を実施した。
- ⑪成果の普及方法・実績について
- (ア) 研究報告書
令和4年度の研究開発実践について研究報告書を作成し、関係のコンソーシアム団体や協力者に配布する。
- (イ) 広報活動
本校のホームページに様々な活動を掲載し発信した。また広報誌「三高NEWS」を発行し、地元中学校及び本校生徒・保護者に配布した。

1.1 目標の進捗状況、成果、評価

(1) 高校魅力化評価システムより

高校魅力化評価システムのアンケートの「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」という肯定的回答をした割合から見た本校の概要

[全体像]

「地域」というキーワードには高い割合で肯定的回答が見られる。他地域よりも明確に高く、地域との協働意識は高い。

[内容別]

①学習活動と②学習環境について

- ・「社会性」が、年度経過とともに上昇している。また、他地域と比べても高い。
(詳細結果)から①学習活動では「14 地域の魅力や資源について考える」「15 地域の課題の解決方法について考える」が他地域に比べ 20 ポイント前後大きく高い。②学習環境では「29 地域の人や課題などにじかに触れる機会がある」「32 自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある」が他地域に比べ 10 ポイント前後大きく高い。
- ・学習環境の「協働性」が、年度経過とともに上昇している。
(詳細結果)から「自分と異なる立場や役割を持つ人との関わりがある」が前年度に比べ上昇している。また①学習活動の「協働性」(詳細結果)で「9 活動、学習内容について大人(教員や地域の大人)と話し合う」の3年生の回答が年度を追って大きく伸びている。
- ③自己認識の「協働性」について
- ・年度経過ではやや下降しているものの、他地域と比べると依然高い。
(詳細結果)から「50 友達の前で自分の意見を発表することは得意だ」が他の地域に比べて高い。
- ④行動実績について
- ・「社会性」が、年度経過ではやや下降しているものの、他地域と比べると依然高い。
(詳細結果)から「69 今住んでいる地域の行事に参加した」「70 地域社会などでボランティア活動に参加した」が他の地域より 10 ポイント前後高い。

(2) 目標設定シート

目標設定シートに関する項目については、2月に本校独自のアンケートを実施し、以下の項目について分析を行った。

①本構想において実現する成果目標の設定(アウトカム)

- (ア)「三国高校コミュニティデザイナー」等の認定を受けた生徒の割合を最終年次30%とする。

昨年度、コミュニティーデザイナーの資格認定について抜本的に考え方を換え、当初の計画より目標設定シートの割合を変更した。本校の教育目標である目指す生徒像「究・挑・結・愛」に基づいて作成した自己評価ルーブリックを3年生全員に対して1月に実施し、その資料を教職員が協議をして3年生の中から認定を行った。新たに認定を受けた3年生は42名であった。割合は、3年生の生徒数に対して約32%で最終年次の目標30%を達成した。本年度の3年生については総合的な探究の時間に併せて「三国地域学」を履修したこともあり、深く地域と協働して探究活動に取り組む機会があり、活動に対する姿勢や成果からもコミュニティーデザイナーに資する人材を多く挙げることでできた。

- (イ)就職志望者のうち県内に就職する生徒の割合を95%以上、進学志望者のうち将来県内での就職を希望する生徒の割合を80%以上とする。

就職を希望している生徒のうち、福井県で就職したいと思っている生徒と3年生で福井県の会社または地方公共団体に就職の内定をもらっている割合は、94%で最終年次の目標(95%)は惜しくも達成できなかった。割合としては昨年度と全く同じである。1年生の就職希望者は8名で、そのうち福井県で就職したいと考えている生徒は5名で割合は63%である。2年生の就職希望者は9名でそのうち福井県で就職したいと思っている生徒は8名で割合は89%である。3年生の就職希望者は18名でそのうち福井県で就職が決定している生徒は17名であり、割合は94%であった。

大学・短大・専門学校などの進学志望者のうち将来県内での就職を希望する生徒の割合は62%で最終年次の目標(80%)を達成できなかった。しかし、昨年度が62%であったので、割合としては昨年度と全く同じである。1年生の福井県への就職希望の割合がかなり低い。1年生の進学希望者は91名で、そのうち将来は福井県で就職したいと思っている生徒は48名で割合は53%である。2年生の進学希望者は104名で、そのうち将来は福井県で就職したいと思っている生徒は64名で割合は62%である。3

年生の進学希望者は111名で、そのうち将来福井県で就職したいと思っている生徒は80名で割合は72%である。本事業を通じて地元の良さや魅力を知る機会を得られ、それらを理解しているようだが、まだまだ高校生の段階では就職までイメージができておらず、一度地元を離れて外から地元の眺める機会が必要なかもしれない。

(ウ) アンケートで「ふるさとに対する愛着が深まった」と回答する生徒の割合を90%とする。

アンケートで「ふるさとに対する愛着が深まった」と回答する生徒の割合は92%で最終年次の目標(90%)を達成している。昨年度の割合88%から微増となっている。1年生で「ふるさとに対する愛着が深まった」と回答する生徒の割合は91%、2年生では91%、3年生では93%であった。

②地域人材を育成する高校としての活動指標

(ア) 三高地域魅力化プロジェクトの実施回数を最終年次20回とする。

最終年次目標 20回

本年度も総合的な探究の時間では1、2年生ともにプロジェクトを進めるにあたりコンソーシアム関係者の協力をいただいた。昨年度と比べオンライン形式よりも対面での講義やアドバイスを受ける機会が多かった。1年生ではオンライン講義2回、町歩き1回、アズASとの活動1回、アイデア発表会1回、空き家活用プロジェクト本番1回を実施、2年生ではガイダンス講義1回、坂井市役所職員からのアドバイス2回、本番発表会1回を実施した。また、2、3年生の学校設定科目(三国の文化資源探究、三国の環境資源探究)では講演や見学、発表会を通じて各々20回、30回行い、合計で50回となり目標を大幅に超える結果となった。年を追うごとに、教員も地域の方も協働して教育活動を行える(関われる)と考えるようになり、お互いにwin-winの関係が構築できるようになった。

(イ) 県内外における合同発表会・研究報告会等への参加回数を最終年次8回とする。

最終年次目標 8回

今年度は、11月に本校で坂井地区の高校4校合同の探究活動発表会を行い、各校で行っている取組を発表し、意見交換を行った。また、12月には坂井地区キャリア教育推進フォーラムに参加し、地域探究同好会の2年生2名が空き家活用プロジェクト、坂井市の課題解決策提言、地域探究同好会の活動について発表を行った。2月には福井大学ラウンドテーブルで2年生の3グループが地域魅力化プロジェクトで行った取組をポスターセッションにて発表した。坂井市主催の「まちづくりカレッジ学習成果発表会」に教員2名と生徒5名が参加し、坂井地区の大人・高校生が取り組んだ活動について拝聴した。3月下旬には羽水高校主催の「高校生探究クロスセッション」にて本校から3グループが参加し、総合的な探究の時間での活動について発表を行うことになっている。また、UDCS主催の「大学・高校まちづくりリーグ研究発表交流会」にて地域探究同好会の生徒2名が地元のえちぜん鉄道との協働的な取組について発表を行う予定である。その他、教員の研究報告会等の参加については県外1回、県内3回の計4回であった。回数は全体として合計10回となり、目標を達成することができた。新型コロナウイルスの感染症拡大が危惧されたが、行動制限が緩和されたこともあり、対面で生徒たちが参加できる発表会が増えた。また、昨年以上に積極的に参加しようとする姿勢が見られたのは大きな成果であった。

③地域人材を育成する地域としての活動指標

(ア) 三高地域魅力化プロジェクトや地域における活動に参画する外部人材の延べ人数を最終年100人とする。

最終年次目標 100人

- ・三高地域魅力化プロジェクト・・・(1年)延べ42名 (2年)延べ22名
- ・学校設定科目・・・(文化資源探究)2年 延べ26名 3年 延べ20名
(環境資源探究)2年 延べ15名 3年 延べ27名
- ・教科探究学習・・・(家庭科)2名
- ・地域探究同好会・・・延べ40名

合計延べ人数194名で目標を大幅に上回った。

特に本校の同窓生を中心に、快く講演の講師やアドバイザー、発表の評価者を引き受けていただき、好意的に活動を捉え、やりがいを感じていただいている。講演での内容や伝え方についても年々こちらが期待する形になってきている。ただ、関わっていただく地域の方の数が増えたことで、交渉や打ち合わせを行う教員・コーディネーターの負担が増えており、謝金の問題も懸念されている。

<添付資料>目標設定シート (別紙)

1.2 次年度以降の課題及び改善点

(1) 研究開発にかかる課題や改善点

3年間、総合的な探究の時間を使って「地域魅力化プロジェクト」を実践してきたが、大きく分けて2点の課題が見えてきた。1点目は生徒の学びの意欲や主体性についてである。高校魅力化評価システムの結果から「現状を分析し、目的や課題を明らかにすること」、「目的を設定し、確実に行動すること」の評価が低かった。教員側が時間内に授業計画を遂行することに主眼を置きすぎたため、指示が多くなり、生徒たちがじっくりと深く思考する機会やトレーニングが不十分であった。そのため、やらされている感覚があり、受け身的な姿勢で授業に臨む生徒が多かった。来年度は1年次に思考を深める時間とトレーニングの機会を十分に設け、さらに自由にアウトプットが出来る場面を設定していき、「自分たちで考えた」という意識を持てるよう促したい。2点目は「三国地域学」との棲み分けである。地域魅力化プロジェクトも三国地域学も「地域」をテーマに活動していく授業なので、学習内容が似ていたり、発表の機会が重なったりすることがあった。カリキュラムや授業計画において、両者が有機的に結びついて連携・連動できる仕組みを考えていく必要がある。

(2) 自走に向けた方向性

(ア) スクールポリシーを基にしたカリキュラムマネジメントの推進

本年度より、スクールポリシーを生徒たちに提示し、この授業を通じて身につけるべき力を共有したが、授業自体がまだまだそれを意識しての目標設定や活動計画になっていない。職員協議会や研修会(各教科の教科会)を通じてカリキュラムマネジメントの推進を行い、目的・目標と手立てが合致した活動を考えていく。また、機会を見てPDCAのサイクルを回しながら評価・改善を行っていく。

(イ) 坂井市との協力体制

3年間を通じて構築してきた坂井市との関係をさらに密にしていく。坂井市では来年度から「坂井市高等学校魅力化支援事業」を立ち上げ、坂井市内の高等学校で行われている事業を支援して下さる予定である。新規性・発展性があるもの、生徒が主体的に考えた企画、効果が検証できるものであるという条件はあるが、本事業で培ってきたノウハウを活かし、採用される企画を考えていく。コーディネーターの勤務日、時間の拡充についても要望をしていく予定である。

(ウ) 探究的な学習の各教科への拡大

スクールポリシーの実現は単一教科では不可能で、すべての教科で取り組む必要がある。本事業であまり推進できなかった教科横断的な学習を進めていく。例えば、発表等で必要

な表現力の育成を国語科が担ったり、三国の食・特産の学習では食材について家庭科で掘り下げて学習したりするなど、各教科の特性を活かしながら、それぞれが探究学習を支える形になるようにしていく。

【担当者】

担当課	福井県教育庁高校教育課	T E L	0776-20-0570
氏 名	板倉 孝司	F A X	0776-20-0669
職 名	高校教育課 主任	e-mail	k-itakura-71@pref.fukui.lg.jp

ふりがな	ふくいけんりつみくにこうとうがっこう	指定期間	令和2～4
学校名	福井県立三国高等学校		

地域との協働による高等学校教育改革推進事業 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）						
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	目標値(2022年度)
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標) 「三国高校コミュニティデザイナー」等の認定を受けた生徒の割合を最終年次30%とする。						
a	本事業対象生徒：		4.9	24	32	30
	本事業対象生徒以外：					
目標設定の考え方：初年度の認定者を10%、2年次・3年次は前年度比+10%増でそれぞれ20%、30%とする。年度ごとの目標に達しない場合は、活動内容の改善を求める。						
(高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標) 就職志望者のうち県内に就職する生徒の割合を95%以上、進学志望者のうち将来県内での就職を希望する生徒の割合を80%以上とする。						
b	本事業対象生徒：		89/63	89/62	94/62	95/80
	本事業対象生徒以外：					
目標設定の考え方：初年度の目標をそれぞれ85%（就職志望者）、60%（進学志望者）とする。就職志望者は毎年+5%、進学志望者は毎年+10%とし、年度ごとの目標に達しない場合は活動内容の改善を求める。						
(その他本構想における取組の達成目標) アンケートで「ふるさとに対する愛着が深まった」と回答する生徒の割合を90%とする。						
c	本事業対象生徒：		82	88	92	90
	本事業対象生徒以外：					
目標設定の考え方：本事業の各プログラムで学習することによって「ふるさとへの愛着」に肯定的な回答を示す生徒の割合を初年度70%、2年次・3年次は前年度比+10%とする。年度ごとの目標に達しない場合は、活動内容の改善を求める。						

2. 地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）						
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	目標値(2022年度)
(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 三高地域魅力化プロジェクトの実施回数を最終年次20回とする。						
a			10	13	50	20
目標設定の考え方：地域人材と協働で実施するプロジェクトの回数を初年度10回、2年次・3年次は前年度比50%増でそれぞれ15回、20回とする。年度ごとの目標に達しない場合は、活動内容の改善を求める。						
(普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 県内外における合同発表会・研究報告会等への参加回数を最終年次8回とする。						
b			4	4	10	8
目標設定の考え方：初年度は4回、2年次は6回、3年次は8回とする。年度ごとの目標回数に達しない場合は、活動内容の改善を求める。						
(その他本構想における取組の具体的指標)						
c						
目標設定の考え方：						

3. 地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）						
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	目標値(2022年度)
(地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 三国地域魅力化プロジェクトや地域における活動に参画する外部人材の延べ人数を最終年次100人とする。						
a			63	106	194	100
目標設定の考え方：初年度の参画者数を50人、2年次・3年次は前年度比+25人とする。年度ごとの目標数に達しない場合は、活動内容の改善を求める。						
(その他本構想における取組の具体的指標)						
d						
目標設定の考え方：						

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
全校生徒数（人）	522	484	431	413	394
本事業対象生徒数			431	413	394
本事業対象外生徒数			0	0	0

第2章 三高地域魅力化プロジェクト

2-1 1年生

(1) 事業の概要

1年生では、三国町北本町地区の空き家を活用して、地域活性化に資する活動を企画・運営する「空き家活用プロジェクト」を1年間かけて行った。具体的には、対象地区内の空き家を選定してもらい、12月13日(火)の1日お借りして、1年生4クラスがそれぞれ自分たちの活用方法を提案、実践するというものである。

(2) 事業目的

- ①三国町の町家の現状を理解し、地域の魅力について考える契機とする。
- ②地域の魅力発信のためにできることを考えたり、その方策を企画・実践したりすることを通して、地域に対する思いや当事者意識を育てるとともに、地域に貢献しようとする心を育む。
- ③発想力や計画力、主体性や協調性、思考力・判断力・表現力、探究心や挑戦意欲などを養い、本校の教育目標の実現に資する。

(3) 事業計画(右側に①～⑤とあるのは、事業実績紹介あり)

月 日	学 習 活 動
4月26日	マインドマップを利用して探究方法を学ぶ
5月10日	講演会1 中島伸氏による地域探究活動を行う上での心構えなどの講演会
5月31日	講演会2 東京都市大学院生によるまちづくり企画の事例紹介と、空き家でイベントをする際のアドバイス
6月 7日	UDCSの協力による三国町内探索・・・・・・・・・・・・・・・・①
6月14日	探索の振り返り
6月21日	アズAS☆×地域の担い手づくりプログラム・・・・・・・・・・②
6月28日	2年生から空き家活用のアドバイス
9月13日	アイデア出し
9月20日	グループでの企画立案
10月 4日	グループでの企画立案・アイデア発表会準備
10月25日	アイデア発表会準備
11月 1日	アイデア発表会 各グループの企画を発表し合い、クラス内の優秀企画を選考・・・・・・・・・・③
11月 8日	アイデア発表会振り返り・各クラスで企画のブラッシュアップ
11月15日	空き家活用プロジェクト発表準備1
11月22日	空き家活用プロジェクト発表準備2
11月29日	空き家活用プロジェクト発表準備3
12月12日	空き家活用プロジェクト発表準備4・・・・・・・・・・④
12月13日	空き家活用プロジェクト本番・・・・・・・・・・⑤
1月24日	空き家活用プロジェクト振り返り

(4) 事業実績紹介

① 三国町内探索

活動内容…三国町の中心部を実際に歩いてみることで、三国町の魅力と課題を知り、空き家活用プロジェクトの動機付けを図った。連携協定を結んでいるアーバンデザインセンター坂井(以後、UDCS)の協力を得て、チェックポイントを5つ設け、それぞれのチェックポイントで担当者の説明を受けると共に、チェックポイント間での要所では担任副担任による解説を行った。三国町出身の生徒にとっても馴染みがないポイントを探索したため、生徒は興味津々で講師の話の聞くことができた。また、町家のリノベーションの例を見て、空き家活用へのアイデアを考えることができた。



② アズAS☆地域の担い手づくりプログラム

活動内容…株式会社キャリアプラス様協力のもと、地域の企業の方々のお話を聴く機会をいただいた。三国をはじめとした近隣の地域にはどのような企業があるのか、業務内容や仕事のやりがいなどは何かなど、なかなか知ることができないことについて、グループに分かれてインタビュー形式で質問し、それぞれの内容をまとめて発表した。生徒は地域の企業を知ることにより、世間のニーズについて考え、企画する際のアイデア出しに活用しようとする姿が見られた。また、収集した情報をまとめて発表することで、人に伝えようとしたときの話し方や情報の提示の仕方など、2学期に控えているアイデア発表会や空き家活用プロジェクト本番のときに生きるプレゼンテーション能力について学んだ。

生徒によっては、今回参加してくださった企業の中で、見たり聞いたりしたことがある企業もあった。しかし、普段生活しているだけでは、その企業がどのようなことをしているのか、何を目的としているのか、どのようなニーズに応えるために仕事をしているのかなどを考える機会はなかった。それらを知る機会を得ることができ、生徒たちは興味を持って話を聴くとともに、空き家活用への企画発案に向けたきっかけとなった。



③ 空き家活用アイデア発表会

活動内容… 9月より5～6人程度のグループで考えてきた空き家活用のアイデアをそれぞれ発表しあった。各教室で、グーグルのスライドを使った発表を行い、内容が1番良かったグループと発表が1番良かったグループを、グーグルフォームを使って投票した。生徒は自分たちで考えたアイデアをわかりやすく説明するため、写真やイラスト、図や表など様々な工夫を施していた。投票の際、ループリックに沿った評価を行いながら投票した。また、坂井市役所職員、福井大学の先生、地域の企業の方などに来校いただき、評価をしていただいた。



④ 空き家活用プロジェクト準備

活動内容… 11月の発表会で選ばれたアイデアをベースにブラッシュアップを行って、クラスの空き家活用企画を固めていった。クラスの他の班のアイデアを参考にするなど、様々な形で深め、広めていった。アイデアが固まった後はクラスで役割分担を行い、空き家活用の準備に入った。企画・内装・外装・広報・資料作成の担当などに分かれ、それぞれの担当で準備を進めていった。

また、広報の一環としてポスターを作成し、付近の中学校や公共施設、えちぜん鉄道の駅に貼らせていただいた。



⑤ 空き家活用プロジェクト本番

(ア) 活動内容…UDCSが選定した空き家をクラスごとに割り当てた。当日は10時から15時まで各空き家で活動を行い、地域の方々、地元の保育園児や小学生、三国高校の先輩たち、他校の高校生、教職員、観光客等が多数来場し、盛況となった。また、駅や近くのショッピングセンターでもビラ配りを行い、当日ビラを見て来場して下さった方もいた。

(イ) 各クラスの店の企画内容

	<p>海ゴミストラップ&モッコ刺し体験</p> <p>企画内容：三国伝統のモッコ刺しと、三国のサンセットビーチで回収したプラスチックの海ゴミを活用し、ストラップづくりをしてもらう。三国の海や伝統文化について知ってもらうとともに、三国の環境問題について考えてもらう契機づくりとなった。</p>
2組	<p>三国を知るまで帰れま10 in すぐろく</p> <p>企画内容：すぐろくで昔と今の三国の良さを発見してもらう。クイズや観光地の写真を使ったオリジナルパズルを楽しみながら、三国の歴史やあまり知られていない観光地、オススメの食べ物について知ってもらう機会となった。</p>
3組	<p>宝探し×クイズ～三国はすごいぞ！これからも！！～</p> <p>企画内容：三国や三国に住む人たちの魅力をテーマにしたクイズに答えてもらい、三国の名所や名物をモチーフにしたステッカーを集め、オリジナルのフォトフレームを作ってもらう。地域の方に、地元三国をもっと好きになってもらい、誇りをもってもらう契機づくりとなった。</p>
4組	<p>小規模三国祭</p> <p>企画内容：北陸三大祭の一つである三国祭の魅力や楽しさを知り、そこから三国の伝統文化や歴史に興味関心を持ってもらうために、ペーパークラフトでの山車作り体験や屋台ゲームを企画した。この企画を通して地域の魅力発見や発信、愛着を深めることに繋がった。</p>

(ウ) 生徒の感想

- ・この活動を通して、三国の自然や街並みだけでなく、地域住民の温かさを知ることができました。
- ・やはり三国町は地元の人々に愛されている場所なのだと再確認することができました。
- ・最初は何も魅力のない町だと思っていたが、身近すぎて気づいていなかっただけで、改めて三国の良さや魅力を見つけることができた。一番身近な自分たちが魅力に気づくことが重要だと思った。
- ・三国という町にしかない伝統や魅力を発見し、実感できました。
- ・その地域の魅力は自分から見つけようと思って行動すれば、いくらでも見つかるぐらい、各地域にはたくさんの魅力が潜んでいるのだなと感じました。
- ・一人で頑張るのではなく、みんなで協力することで一人よりもさらにいいものに仕上げていることの良さを感じました。
- ・今回のプロジェクトでたくさんの地域の方と話すことができ、とても優しく温かい人たちが多いなと感じました。
- ・ビラ配りの際、とても親切な方が、拍手をしながら「三国高校の生徒はなんて素晴らしいの。えらい。」と声をかけてくださり、自分たちがしていることの重要性を感じ、誇りをもつことができた。
- ・人と話し、問題や改善方法について話し合う力や、全体を見て物事を進める力がついた。
- ・テレビで放送された映像を見て、自分たちが作った看板が映り、作って良かったと感動した。

(エ) 記録写真



(5) 活動の総括と今後に向けて

空き家活用プロジェクトは、今回で5年目となった。今年は空き家の課題解決よりも、三国の魅力発信を主軸にして活動を行った。その成果が生徒の感想にも如実に現れ、地域の魅力の発見や再確認、興味関心の向上、発信への意欲喚起、感動や矜持にもつながったと考えられる。また、地域の人々との交流も、新しい発見や生徒自身の成長を促すことができた。

本事業が終了し、来年度は違った形で三国高校の地域魅力化プロジェクトが進められていくことになるが、根幹にある地域の魅力の気づきと発信は継承していきたい。

2-2 2年生

(1) 事業の概要

2年生では、1年次に行った三国町北本町地区の空き家問題解決に向けたプロジェクト学習のサイクルを発展させ、三国地区や坂井市、福井県と地域を広げ、地域の課題解決に向け課題発見段階からプロジェクト学習を行った。各生徒によるグループでの地域の課題解決に向けたアイディアは提言として、令和5年2月7日に開催した「三高地域魅力化プロジェクト発表会」にて坂井市議会議員等に向けてプレゼンテーションを行った。

(2) 事業目的

以下の3点を掲げた。

- ①地域に関心を持ち、地域を愛する気持ちを育てる。
- ②先行研究や実地調査、インタビュー、データ分析、アンケートなどを通して、課題の原因を分析し、課題を解決する自分たちなりのアイディアを創造できるようになる。
- ③グループ活動や坂井市役所の職員をはじめとする他者との関係の中で、互いに合意形成を図り、協働する力を育てる。

(3) 事業計画（右側に①～⑥とあるのは、事業実績紹介あり）

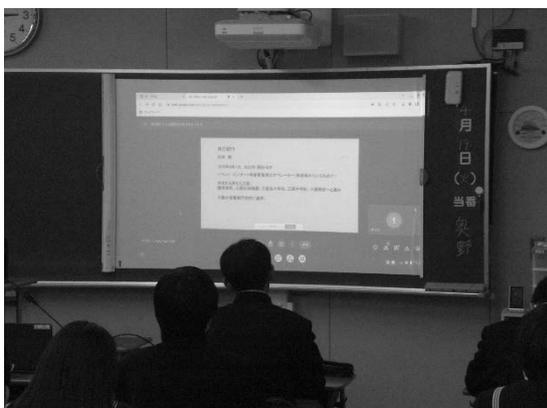
月 日	学 習 活 動
4月14日	ガイダンス
4月19日	地域を学ぶ(1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・① 地域協働コーディネーター 浜田剛氏による講演
4月26日	地域を学ぶ(2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・② SDGsについて学ぶ。
5月10日	地域を学ぶ(3)(先行事例研究) 前回選んだSDGsの項目にあう、日本各地の先行事例調査。稼げるまちづくり取組事例集『地域のチャレンジ100』(内閣府地方創生推進事務局)から興味のある事例を選び、まとめる。
5月31日	地域を学ぶ(4)(先行事例研究発表会) 前回まで調べた先行事例研究をまとめ、グループ内で発表する。
6月 7日	個人テーマ設定(1) 坂井市の課題について調べる。
6月14日	個人テーマ設定(2) 2つ目の項目についても坂井市の課題を調べる。
6月21日	個人の提言アイディア設定 各自が発見した坂井市の課題について、解決策を考える。
6月28日	仮グループで課題と解決策の提案 似た意見の生徒同士で仮グループを結成し、試しに課題と解決策の提案を行う。
9月 8日	グループ結成と、グループでの課題・解決策設定
9月20日	グループでの課題・解決策設定
9月27日	グループでの課題・解決策のブラッシュアップ
10月25日	市役所職員の方々に協力していただき提言のブラッシュアップ・・・・③
11月 1日	グループとしての課題・解決策決定
11月 8日	提言のプレゼン作成(1)

1 1月15日	提言のプレゼン作成（2）
1 1月22日	中間発表準備（1）
1 1月29日	中間発表準備（2）
1 2月12日	中間発表会（クラス内）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・④
1 月24日	提言プレゼンテーションのブラッシュアップ
1 月31日	三高地域魅力化プロジェクト発表会準備
2 月 7日	三高地域魅力化プロジェクト発表会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・⑤
2 月中旬	地域探究レポート（原稿まとめ）作成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・⑥
3 月中旬	地域探究振り返り（アンケート形式）

（4）事業実績紹介

① 地域を学ぶ（1）『浜田剛氏による講演』

活動内容…地域協働コーディネーターの浜田剛氏による講演。浜田氏は一般社団法人アーバンデザインセンター坂井（以下、UDCS）に事務局メンバーとして所属しており、三国について詳しいことはもちろん、まちづくりに関する有識者でもある。三国ならではの良さを知るとともに、地域が抱えている課題を丁寧に説明していただいた。また、まちづくり活動に携わることになった経緯や動機、活気あるまちを目指す上で取り組みの際に気を付けているポイントなど、実際にまちづくり活動に携わっているからこそ伝えられる内容をわかりやすく伝えていただいた。



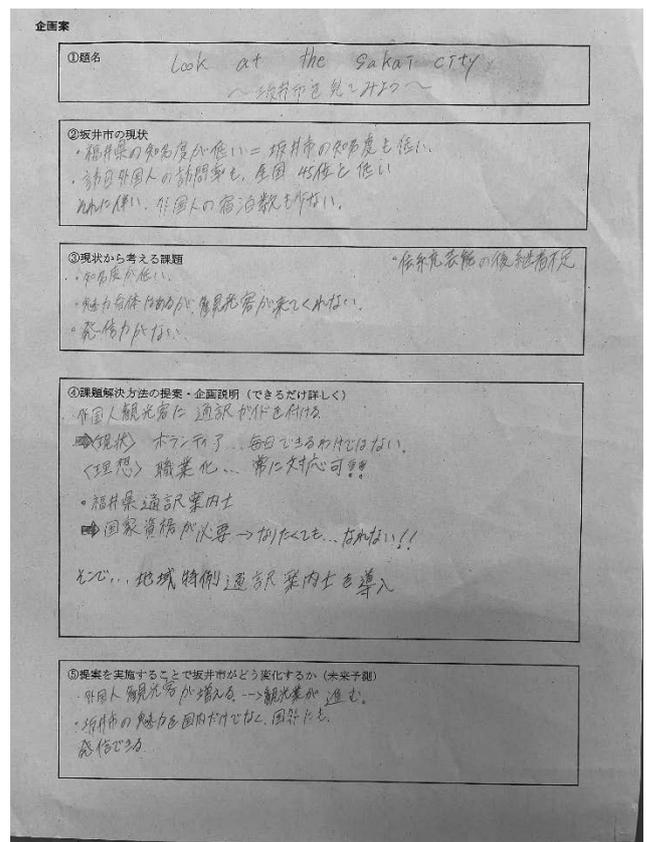
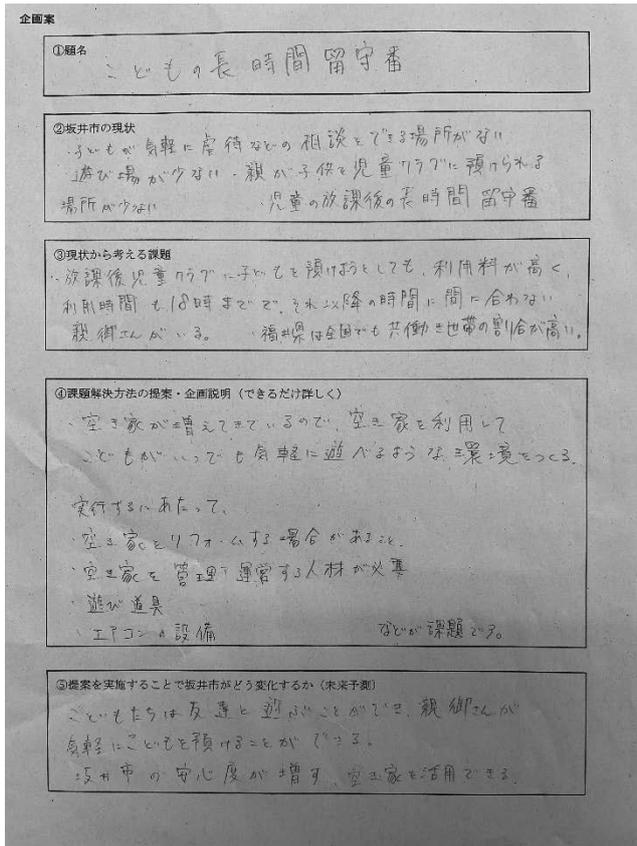
② 地域を学ぶ（2）『SDG s について知る』

活動内容…地域の課題を調べていく前に世界的な課題である SDG s について理解を深めた。ユニセフの SDG s の紹介サイトには、各項目ごとの紹介や、具体的な対策についても紹介されている。各自でテーマを分担して、調査をした後にグループで互いに発表した。世界中で問題になっていることについて調査を進めたことで、自分たちが住む日本、あるいは福井県や坂井市でも似たような課題を抱えていることに気付くきっかけを得た。漠然と地域の課題を考えるのではなく、他地域では何が課題となっているかを知ること、高校生という立場からだけでなく幅広い視点から課題に向き合う足掛かりとなった。

③ 市役所職員の方々に協力していただき提言のブラッシュアップ

活動内容…坂井市役所の職員4名に依頼し、現段階での生徒の課題設定や解決策のアイデアに対するアドバイスをいただき提言のブラッシュアップを行った。坂井市の現状を踏まえた課題や解決策を用紙にまとめて事前にお渡しし、活動時に生徒たちに直接アドバイスを行っていただいた。特に、課題設定のためのデータ不足や、解決策の実現可能性、すでに坂井市にある似た制度の活用提案等、具体的なアドバイスをいただいた。

<事前にお渡しした企画案の例>



<活動時の様子>



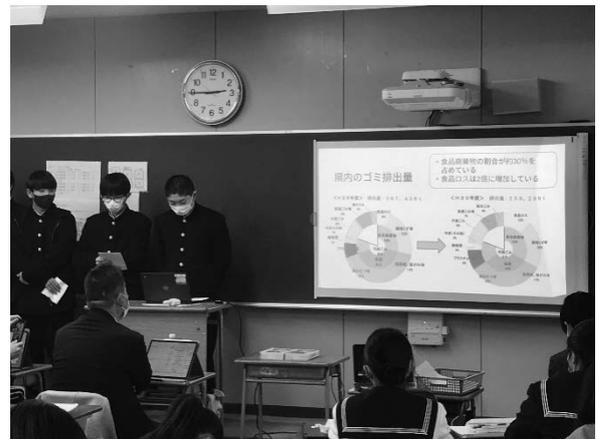
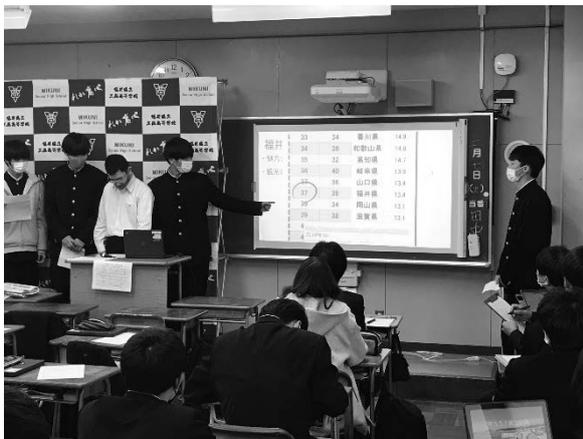
④ 中間発表会(クラス内)

活動内容…各グループが自分たちの提言について、テーマを設定した背景と現状分析、自分たちの主張、目指す地域や環境等の将来の姿、今後の課題についてこれまでにいただいたアドバイスも踏まえてスライドを作成し、それぞれのクラスの中で発表した。クラス内で相互評価を行い、客観的な立場から発表を聞いた人の意見を取り入れながら企画案の修正に取り組む活動に繋がった。発表後には企画案を用紙にまとめ直して市役所職員にお渡しし、本番に向けて企画を修正するためのアドバイスをいただいた。

⑤ 三高地域魅力化プロジェクト発表会

活動内容…各グループがそれぞれ練り上げてきた提言について、テーマを設定した背景と現状分析、主張、目指す地域や環境等の姿、今後の課題について発表した。全4会場で坂井市議会議員を2名ずつアドバイザーとして迎えた。それぞれの企画案に対して良かったと感じる点や疑問に感じる点、実際に行うとした際に気がかりな点など、生徒の発表に対して丁寧にコメントをいただいた。高校生ならではのアイデアも多く、市議会議員の方々の視点からはなかなか出てこないような企画案に対して好評をいただいた。中には、生徒たちの案を参考に議会で提言したいとのコメントもいただくなど、発表会を通してプレゼンテーション能力を向上させるとともに自己肯定感を高めることができた。

<発表会の様子>



< 提言テーマ一覧 >

	テーマ	タイトル		テーマ	タイトル
1	公共事業	素敵なトイレ	14	地理(環境)	海岸のゴミ問題を解決しよう
2	特産品	坂井市の特産品を広めよう	15	人口	高校生が作った家に住める！？ みんなが笑顔の街坂井市に
3	観光	観光客の増加	16	観光	Look At the Sakai City
4	情報発信	全国へ発信	17	地理(環境)	Beautiful Sea
5	地理(環境)	Stop Beach Pollution ～beachの豊かさを守ろう～	18	観光	坂井市の観光名所を より良くしよう!!!
6	地理(環境)	守ろう！美しい海	19	雇用・仕事	こどもの長時間留守
7	観光	僕らの東尋坊大作戦	20	公共事業	えちぜん鉄道の改正案
8	公共事業	交通網から考える坂井市の現状	21	産業	三国を「楽しむ」 ～若者をターゲットに考える～
9	観光	観光客があふれる街へ	22	地理(環境)	Let's join this recipe contest!
10	人口	人口減少にはさせない！！	23	観光	サンセットビーチのライトアップ
11	地理(環境)	ビーチクリーン活動	24	人口	結婚応援プロジェクト
12	人口	坂井市の少子高齢化事情	25	人口	少子高齢化
13	特産品	From Fukui to the world			

⑥ レポート作成

活動内容…これまでの提言をレポートにまとめた。レポートの構成はおおよそ発表原稿の流れと一致するように様式を設定し、グループごとに作成した。自分たちの活動を振り返る機会を得るとともに、何をしてきたかを言語化しておくことで、進学や就職などで必要となった時に見返す資料を残すことを目的とした。また、文章構成やデータの扱いなど、形式に則った文章を作成する練習としてもいい機会となった。

(5) 活動の総括と今後に向けて

1年次は教員側から誘導し地域における課題を設定したが、2年次は自分たちで課題を設定することから探究活動を始めた。先行事例について調査する時間を長くすることで、普段生活しているだけでは感じなかった身近な地域に潜む課題に気付くきっかけを得た。SDGsをはじめとして、世の中には様々な課題とそれに対する取り組みがあり、それらを参考にしつつ高校生ならではの視点から地域の課題に対する企画を立てることができた。

ただ自分たちの感覚で地域の課題を決めつけるのではなく、それを裏付ける根拠となる正確なデータを用意するなど、論理的な文章の構成や有効なデータの活用方法などについても学んだ。他者に伝えることの難しさを実感するとともに、根拠を示す必要性を知ることができた。また、自分たちで考えるだけでなく坂井市役所職員の方々からコメントをいただき修正を加えることで、客観的な立場からの視点を踏まえながら企画できた。グループ活動をはじめとして、他者と互いに合意形成を図り、協働する力を育てることができた。一方で、昨年度の2年生と比べて市役所職員の方々に活動に参加していただきコメントをいただく回数は少なかった。外部団体との協力体制を有効に活用しきれなかったことは今年度の反省点として挙げられる。

これらの活動を通して考えをアウトプットすることに対して積極的に行動できる生徒がかなり増えた。地元の国立大学である福井大学の教職大学院が主催したポスターセッションを通して探究活動を共有する福井ラウンドテーブルや福井県立羽水高等学校が主催する高校生探究クロスセッション、UDCSが主催する高校・大学まちづくりリーグ研究発表交流会などの外部活動に積極的に参加し、情報発信に励む姿が見られた。自分たちの取り組みに自信を持ち発表の場を多く経験することで活動のフィードバックにもつながり、これまでの活動を振り返る機会を多く得ることができた。これらは1年次にはなかなか見ることができなかった姿で、生徒にとって大きな成長であったと言える。3年次には進学や就職に向けて、自分たちの活動について振り返り言語表現を行う場面が増えることが予想される。進路実現に向けて2年次の取り組みは大きな一助になったと考えられる。

2-3 3年生

(1) 事業の概要

3年生では、1、2年生で行ってきた探究活動について振り返り、レポートにまとめる活動を中心に行った。また、3年間の振り返りとして、本校の目指す生徒像を基にしたコミュニティーデザイナーについての自己評価を、ループリックを用いて行った。その他、卒業学年として進路の実現に向けた活動を多く行った。具体的には、志望理由や自己PR文を考えたり、新聞記事を利用して要約や発表を行ったりして、知識を深め、各自の思考力・判断力・表現力を養った。

(2) 事業目的

教科横断的・総合的な学習や探究的な学習を通じて自ら課題を見つけ、その課題を他者と協働して解決する能力を育成するとともに、自己の在り方生き方について考察する。

(3) 事業計画（右側に①～②とあるのは、事業実績紹介あり）

月日	学 習 活 動
4月14日	地域探究 総合振り返りレポート作成(1)
4月19日	地域探究 総合振り返りレポート作成(2)
4月26日	地域探究 総合振り返りレポート発表会・・・①
5月10日	進路探究学習 小論文ガイダンス
5月31日	進路探究学習 小論文・志望理由書作成(1)
6月 7日	進路探究学習 小論文・志望理由書作成(2)
6月14日	進路探究学習 小論文・志望理由書作成(3)
6月21日	進路探究学習 小論文・志望理由書作成(4)
6月28日	進路探究学習 小論文・志望理由書作成(5)
7月12日	進路探究学習 小論文・志望理由書・自己PR文テスト
8月31日	高校生活を考える 学校祭運営(1)
9月 2日	高校生活を考える 学校祭運営(2)
9月13日	進路探究学習 テーマ別小論文(1)
9月20日	進路探究学習 テーマ別小論文(2)
9月27日	進路探究学習 テーマ別小論文(3)
10月25日	進路探究学習 テーマ別小論文(4)
11月 1日	進路探究学習 テーマ別小論文(5)
11月 8日	進路探究学習 テーマ別小論文(6)
11月15日	進路探究学習 テーマ別小論文(7)
11月22日	進路探究学習 テーマ別小論文(8)
11月29日	地域探究 3年間の振り返り(ループリック評価)・・・②

(4) 事業実績紹介

① 探究活動振り返りレポートづくり



(ア) 活動内容… 1、2年生で行ってきた探究活動やそこから得た成長について振り返り、文章にまとめた。またお互いの探究活動レポートを読み合い、感想を伝え合い、レポートを改善させた。生徒たちが自身の活動や成長を振り返ることで、改めて地域の課題を考えたり、課題の解決方法を個人の視点と地域の視点から考えたりする機会を得られ、学んだことを今後どう役立てていくべきかを深く考察することができた。また互いのレポートを読みあうことで、自分たちの活動を多角的に検証することができた。

(イ) 探究活動レポートの一部抜粋

「1・2年生の経験を踏まえて、自分が今感じている地域の課題と解決策」

○ 1年生の空き家活動プロジェクト、2年生の三高地域魅力化プロジェクトを通して私が考えた坂井市の課題は、「変わるための大きなきっかけがない」ことだと思う。1年生のときに実施した空き家調査で、実際に空き家を改修して新しい施設として利用している例を何件か見た。また、多くの大人の方が私達の空き家企画に訪れたり、2年次の提言書作成では、市役所の方をはじめ、たくさんの大人の方に意見を頂く等で協力していただいた。これらで私が感じたのは、「坂井市をより良くしようとする活動に、賛同し、協力してくれる大人は多くいるんだ。」ということである。何かきっかけとなる行動を起こせば、多くの人がともに行動し、結果を得られるのではないだろうかと感じた。

「1・2年生のどのような経験から、どのような成長があったと感じていますか(最低3つ)」

○ 1年次の空き家活用では、班での発表やクラスで行う企画の準備で、積極的に協力しようとする姿勢が身につけられたと思う。準備物の作成では、自分に与えられた仕事以外にも、友達の仕事を手伝った。自分から仕事を見つけ、助けようという精神を身につけられたと思う。

2年次の提言書作成では、課題設定の理由や解決策の内容を、具体的、客観的に考え、説明する力が成長したと思う。また、中間発表後の質疑応答では、予想していなかった質問に対して即興で答えることができた。

1、2年生で共通して成長したと思うことは、やはり積極性だと思う。私はなかなか、自分から何かを提案したり、行動を起こすことができなかった。しかし、この2年間の活動で「手伝ってあげよう」「声を出して何か提案してみよう」という小さな気持ちを持ち、行うことが何度か出来た。

○ 自分の思い込んでいたことが、実際に調べてみるとそうではなかったため、思い込みだけで物事を考えることは良くないことを知った。この活動を始める前は、坂井市に訪れる観光客は少ないと思っていたが、調べてみることによって県で1、2位を争うくらい観光客は多いということに気づいた。このことを踏まえて、何か発言するときはそのことについて調べて確実な情報を学んでからすることを心がけている。

課題を解決する上でまずは人と関わることが大事だと知った。そもそも地域の人々が考えている課題と私たちが考える課題では多少なりとも違いがあることが分かった。その違いを知るためにも地域の方々と話すことの大切さを感じ、自分から積極的に話を聞きに行くということを意識するようになった。

「学んだ内容をどのように将来(進学先、就職先、プライベート)に活かしていきたいですか」

○ 私は大学で地域課題について取り組みたいと考えている。問題を主体的に考える力を生かして、自分の住む街だけでなく、他の都市、企業などの課題設定、解決に当たりたい。

しかし総合活動で、足元に目を向けると案外知らなかった伝統文化や、地域の人との関わりに触れられるということ学んだ。だから、まずは自分の地域の行事に参加して、人と関わり様々な経験を経て、感性を養いたい。その養った感性でさらに課題を設定する力に磨きをかけることが大切であると考えた。考えるだけでなく、実際に経験を積むことは多角的な視点を持つ第一歩となると思う。

② 3年間の振り返り(コミュニティーデザイナーに関するループリックの研究開発と自己評価の経年変化を追う取り組み)

(ア) 活動内容…以下に示す本校の目指す生徒像をもとに、5つの観点でコミュニティーデザイナーについてのループリックを令和3年度に作成した。

【究】自ら問いを立て、課題に対する答えを見つけ出せる人

【挑】様々な出来事や困難に勇気と信念を持って立ち向かえる人

【結】多様な人たちと協力しながら、自分の役割を果たせる人

【愛】ふるさとへの愛着や周囲の人々への敬愛の念を持って行動できる人

昨年度、ループリックに基づいて2年生の3月に一度自己評価を行った。その結果を踏まえながら3年生の11月に再度自己評価を実施した。自己評価やこれまでの活動を踏まえて、探究担当者で協議し、コミュニティーデザイナーを42名選び認定証を授与した。

(イ)コミュニティーデザイナー認定式の様子



(ウ) 自己評価に使用したルーブリック

福井県立三国高等学校 目指す生徒像についてのルーブリック

このルーブリック（評価基準表）には、2つの意図があります。1つは、生徒の皆さんが自身を客観的に見つめ直し、意識して挑戦し、自信をもって成長したと言ってもらうため。もう1つは、先生たちの授業や総合的な探究の時間、部活動などの運営が適切かを判断するためです。じっくりと自分の経験や行動を振り返り、一つ一つ自分がどの達成段階にいるかを、根拠をもって選んでください。4に達成するのはとても困難だと思います。高校3年間で、全ての項目が2～3に達することを、一緒に目指しましょう。

目指す生徒像		達成段階			
		1	2	3	4
【究】 自ら問いを立て、課題に対する答えを見つけ出せる人	発見	様々な場面において、現状を客観的に把握しようとするが、インターネット等で検索することとまわっている。(自分で課題を見つけない)	様々な場面において、現状を思い込みや先入観だけでなく、自ら調査やデータ分析を行い客観的・批判的に把握した上で自分で課題を見つげることができる。	様々な場面において、現状を思い込みや先入観だけでなく、自ら調査やデータ分析を行い客観的に把握する。(自分で課題を見つけない)	様々な場面において、現状を思い込みや先入観だけでなく、自ら調査やデータ分析を行い客観的・批判的に把握した上で自分で課題を見つげることができる。
	分析	課題を分析することができない。	課題の原因を分析し、大まかにつかむことはできるが、掘り下げることができない。	課題を様々な視点から捉えて原因を分析し、解決可能なシナリオな要素にすることができ。原因に対する自分なりの解決策を考へることができ。現実可能性や有効性を考慮することができない。	課題を様々な視点から捉えて原因を分析し、解決可能なシナリオな要素にすることができ。原因に対する自分なりの解決策を考へることができ。現実可能性や有効性を考慮することができ。
【挑】 様々な出来事や困難に勇氣と信念を持って立ち向かえる人		困難に対して消極的で、挑もうとしない。	困難に対して挑戦することができ。一度で諦めてしまふ。	困難に失敗を恐れず挑戦し、失敗しても改善点を考へ次の挑戦につなげることができる。	困難に失敗を恐れず挑戦し、失敗しても改善点を考へ次の挑戦につなげることができる。
	【結】 多様な人たちと協力しながら、自分の役割を果たせる人	所属する集団の目標達成や成長のために自分がすべきことを自分で考へ、集団内外の人と協力しながら、役割を果たすことができる。	集団の中で与えられた役割を果たすことができる。	集団の中で与えられた役割を果たすことができる。	所属する集団の目標達成や成長のために自分がすべきことを自分で考へ、集団内外の人と協力しながら、役割を果たすことができる。
【愛】 ふるさとへの愛着や周囲の人々への敬愛の念を持って行動できる人		ふるさとや所属する集団の良さを具体的に表現できない。	ふるさとや所属する集団の良さを具体的に表現できない。	ふるさとや所属する集団の良さを具体的に表現できない。	ふるさとや所属する集団の良さを具体的に表現できる。また、集団の目標を自分で考へ表現することができる。
	【愛】 ふるさとへの愛着や周囲の人々への敬愛の念を持って行動できる人	ふるさとや所属する集団の良さを具体的に表現できない。	ふるさとや所属する集団の良さを具体的に表現できない。	ふるさとや所属する集団の良さを具体的に表現できない。	ふるさとや所属する集団の良さを具体的に表現できる。また、集団の目標を自分で考へ表現することができる。

①まず、目指す生徒像を読んで、全体を把握しましょう。

②次に、達成段階を1から順に読んで、自分がどの段階にいるかを、経験などを根拠に選びましょう。

(エ) 生徒の自己評価の例

生徒	評価の観点と自己評価		自己評価の根拠(勉強や部活、総合的な探究の時間などでの経験など)をそれぞれ自由に入力してください。たくさん具体的にお願いします。
生徒A	究 発見	4	【究】部活動で解決しなければならない問題に気づき、自分の意見だけでなく他の部員や、顧問の先生に聞くなど広い視野を持って対応した。
	究 分析	4	【挑】難しいことでも、失敗を恐れずにチャレンジした。その後、反省や改善点を洗い出し、自分の成長に繋げた。
	挑	3	【結】書道パフォーマンスは団体競技なので、話し合いで自分だけの願望や意見を通さず、周りの意見に耳を傾けることに注力した。また、部長という立場だったため部員のお手本になれるような行動を心がけた。
	結	4	【愛】三国祭りボランティアに参加するなど、地域探究同好会を通じて地元と深く関わることができた。三国の海の良さを伝えるためのイベント企画も行った。
	愛	3	
生徒B	究 発	3	【究】の発見・・・先入観だけでなく、データなどの分析で客観的に現状の把握ができていたと思う。しかし、課題を見つける際には、偏った考えになってしまう場合もあった。
	究 分	3	【究】の分析・・・学習などでの課題の分析をする際に、まずは自分で課題を理解し、解決策を考えることができていたと思う。しかし、有効性を考慮できていないときもあった。
	挑	3	【挑】・・・困難に対して取り組み、課題の解決策を考え、次回につなげることはできていると思う。しかし、失敗を恐れてしまう場合も何度かあった。
	結	4	【結】・・・与えられた役割を協力しながらすることができていたと思う。以前よりも、集団のための行動を考えて、積極的に自分から行動できるようになったと思う。
	愛	4	【愛】・・・受験対策に取り組む上で、自分の住む街の地域の良さを改めて考える時間を設けることができた。地域について考える中で課題と解決策を考えそれを表現する力も備わったと思う。
生徒C	究 発	3	【究】発見については、地域探究の時間に地元の人たちにインタビューを行って調査し調べたことをまとめる際にグループのメンバーの意見を聞きながら、動画やスライドにまとめることができた。
	究 分	3	【究】分析については、学校祭でPR長として、作業を進める上で出てきた課題や問題を、どうやって解決するか、メンバーと話し合い、後輩たちとも協力して乗り越えることができた。特に、コロナの感染拡大によりメンバーが減ってしまったときに、作業量を増やしてカバーし、垂れ幕を運ぶ際に部門全員で協力した。
	挑	4	【挑】については、受験の面接練習やポートフォリオの作成、志望理由書を書くに当たり、友達や先生に練習に付き合ってもらい、何度も繰り返し挑戦して最も良い状態で本番を迎えることができた。
	結	4	【結】については、学校祭や文化資源探究など、いろんな場面でグループ活動をする中であつた中で、自分の役割や仕事を、メンバーと分担し協力して活動することができた。学校祭では、PR部門以外の部門の人たちとも協力して、資材を分け合ったり、動画の撮影に参加してもらったりした。
	愛	3	【愛】1年生から取り組んでいる地域と連携した授業で、3年生になって自分たちで一からスライドや動画を作り、三国の魅力を自分で考えてプレゼンすることができた。

(オ) 分析

この学年は、令和3年度の2年次にルーブリックを用いた自己評価を実施し、令和4年に再度自己評価を行うことで経過変化を見ることができた初めての学年であった。表1は令和3年の自己評価の分布であるが、各項目で3, 4を選ぶ生徒は多くて60%程度で、低い項目では31%であった。一方、表2の令和4年度の自己評価を見ると、3, 4を選択する生徒が大幅に上昇している。「究める(発見)」の3, 4選択者が80%を超え、他の項目も7割以上を達成していた。この期間に進路決定や学校祭の運営などがあったため、「挑む」や「結ぶ」が大きく伸びたと考えられる。また、3年文化資源探究では、インプットした情報を動画という形でアウトプットする活動を行ったため、3組、4組の生徒は総じて「究める(発見)」や「結ぶ」が高い傾向であった。全体的に上昇したものの、やはり「愛する」の項目は伸びが足りないように感じた。地域を知り、課題を理解し、改善を考え、探究の成果をまとめるだけでは、「地域への愛」が生まれていない。このジレンマは今後とも改善していく内容である。

表 1

総合的な探究の時間 自己評価結果 (R3 3月実施)						
	1	2	3	4	計	3,4選択
	人数	人数	人数	人数	人数	割合(%)
究める(発見)	9	70	33	12	124	36
究める(分析)	11	63	46	4	124	40
挑む	9	37	62	16	124	63
結ぶ	6	51	56	11	124	54
愛する	16	70	30	8	124	31

表 2

総合的な探究の時間 自己評価結果 (R4 11月実施)							
	1	2	3	4	計	3,4選択	R3 3年
	人数	人数	人数	人数	人数	割合(%)	割合(%)
究める(発見)	1	22	66	36	125	82	67
究める(分析)	1	29	71	24	125	76	55
挑む	5	13	65	42	125	86	74
結ぶ	0	16	57	52	125	87	63
愛する	3	32	66	24	125	72	50

(5) 活動の総括と今後に向けて(3年間を通しての成果、反省、課題)

ルーブリックを2年間かけて使い、自己評価を繰り返し行うことで、生徒の成長の過程を読み取ることができたことがこの学年の大きな成果であった。また総合的な探究の時間と三国地域学(文化資源探究・環境資源探究)の両立が始まった学年でもあり、2つをうまく連動させられる生徒が一定数いることも分かった。

一方で今は探究の動機を「地域の課題解決をする」としているが、地域の問題点を知れば知るほど地域への愛着が薄れてしまう印象がある。三国の良さをインプットする文化資源探究のような授業を早期に実施してから課題探究に入るなど、カリキュラムの見直しも必要だと考える。また、学年ごとに発表会などの成果を用意するが、生徒たちの探究スキルはあまり上昇している印象はない。自走できていないので、教員が大きく手を加えることもあった。このような状況を鑑みるに、3年間のグランドデザインを教員・生徒・地域アドバイザーなどで共有し、3年間、一本筋の通ったカリキュラム作成が行われるべきである。

第3章 学校設定科目

3-1 三国の文化資源探究

(1) 事業の概要

令和2年度からの地域との協働による高等学校教育改革推進事業を実施するにあたり、総合的な探究の時間での地域探究学習を深めるために、三国の地域についてより深く探究するための教科「三国地域学」を設定し、令和3年より「三国の文化資源探究」を開講した。本校のⅡ系列文系コース（3，4組）の生徒が2年次と3年次において地域の人材と協働して三国の文化資源（食・建築物・芸術作品など）について学び探究する科目である。2、3年次とも本校の国語科，地歴公民科，英語科，芸術科，家庭科の教員が協力し、三国の文化資源について様々な分野において学習、探究を進めていく支援をする。

(2) 事業目的

教科「三国地域学」は地域の人材と協力しながら、三国の文化・環境・まちづくりなどについて学び、将来の三国地域の発展に寄与する人材を育成することを目標としている。本科目「三国の文化資源探究」では、地域の文化資源について、地域の方との交流を通じて様々な分野に渡って深く学び、それについて語るができる生徒を育成する。なお、3年次にはグループ研究を行い、その成果を発表する。

(3) 事業計画

2年生

分野	月 日	学 習 活 動
オリエンテーション	4月15日	「三国の文化資源探究」についてのガイダンス
①三国の 伝統・文化	4月22日	事前学習（三国祭についてのリーフレット作り）
	5月6日	三国祭と山車（講演：石丸博巳氏）
	5月13日	三国祭とお囃子（講演、実演：村田ひとみ氏）
	5月27日	三国神社と三国祭（講演：三国神社宮司 佐々木智氏）
②三国の食・ 物産	6月17日	らっきょう工場見学と根切り体験（三里浜特産農業協同組合）午前中3時間
	7月7日	海女の仕事について、もみわかめ作り体験（講演：石森実和氏）
③三国の寺 院・古墳・建 築等	9月9日	三国の文化財の見方・調べ方（講演：今出瑞穂氏）
	9月16日	瀧谷寺、大湊神社・雄島、魚志楼、旧岸名家・旧森田銀行本店、三国港突堤に訪問（グループに分かれて各所を訪問し、講義を受け取材を行う）
	9月30日	スライド作成（訪問先で学んだことを振り返る）
④三国の作家 や芸術家	10月21日	事前学習（小野忠弘氏、戸田正寿氏について調べる）
	10月28日	小野忠弘氏、戸田正寿氏について（講演：赤土善蔵氏）
	11月4日	ONO MEMORIAL 見学（小野忠弘氏の作品を鑑賞）
	11月11日	Brilliant Heart Museum 見学（戸田正寿氏の作品を鑑賞）
	11月18日	地元の音楽家 ヒナタカコ氏による講演
	11月25日	地元のナレーター 岡田健志氏による講演と詩の鑑賞

⑤三国のイマを盛り上げる人材	1月13日	事前学習（講師の方への質問を考える）
	1月20日	山崎大和氏による講演（CARNA：洋菓子販売）
	1月17日	西友規氏による講演（Posse Coffee：カフェ）
	2月3日	下村禎勝氏による講演（みくに園：盆栽販売）
	2月10日	畑和也氏による講演（S'Amuser：フランス料理店）
	2月17日	小島まりや氏による講演（いとや：提灯販売）
	2月24日	木谷拓未氏、北野翔聖氏による講演（山車の会）

3年生

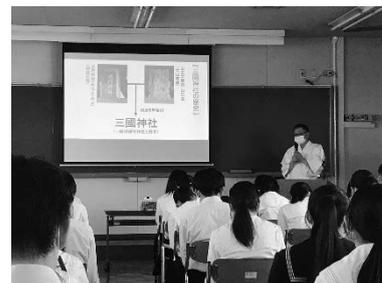
分野	月日	学 習 活 動
1学期 グループ活動 (1)～(9)	4月12日～ 6月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・動画の流れを完成させ、必要な動画を撮影しに行く。 ・動画の中で提示する資料を作成する。 ・動画の編集を行う。
2学期 グループ活動 (10)～(13)	9月6日～ 9月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・さらに必要な動画を撮影する。 ・動画に入れるセリフやキャプションを考える。 ・動画編集を進め完成させる。
発表会準備	10月25日	発表会（クラス内・最終）についての説明を聞き、役割分担をしてスライド作りを行う。
	11月1日	作成したスライドを使って、クラス内発表のリハーサルを行い修正する。
クラス内発表会	11月8日	グループごとに発表を行い、聴衆は評価表に観点別で評価をする。各クラス2グループ選出する。
最終発表会準備	11月15日	選ばれた4グループが本番発表会のリハーサルを行う。
最終発表会	11月22日	外部の方を招いて最終発表会を行う。
振り返り	11月29日	3年次の活動についての振り返り

(4) 事業実績紹介

2年生

①三国の伝統・文化

活動内容…講演を通じて、三国祭の歴史、お囃子、今後の課題など、三国祭について多方面から詳しく学べた。本年度、三国祭はほぼ以前の状態に戻り、7基の山車が巡行し、露店も賑わいを見せた。本授業のおかげか、祭当日は山車曳きを始め、昨年よりも多くの生徒がボランティアに参加し、地域に出て祭を楽しんでいた。昨年同様、この授業が生徒たちにとって三国祭の事前学習となっており、それを受けて当日を迎えることが出来たことは「文化継承」という点でも大変意義があった。



②三国の食・物産

活動内容…本年度も三里浜特産農業協同組合をお願いしてらっきょう工場の見学を行った。工場見学では、三国の特産である花らっきょうの生産、加工、流通、歴史について講演を受け、工場内で製造工程の説明をいただき、その後、畑の見学と根切り体験も行った。また、海女の石森実和さんからは三国の海で働く海女さんの仕事やその仕事のやりがいについて学び、もみわかめ作りの体験も行った。両者とも体験を伴った学習だったので、生徒たちは生き生きと活動に取り組み、三国の食・物産について深く学ぶことが出来た。



③三国の寺院・古墳・建築等

活動内容…本年度は事前学習として県の文化財課から今出瑞穂氏をお招きし、文化財建造物の見方や調べ方のレクチャーを受けた。次週に三国町内の瀧谷寺、大湊神社・雄島、魚志楼、旧岸名家・旧森田銀行本店、三国港突堤の5カ所に分かれて、グループで訪問した。現地で担当の方から詳しい説明を受け、インタビュー等を行った。そこで記録した内容や写真をもとに、振り返りのスライドを作成し、他の生徒と情報を共有した。



④三国の作家や芸術家

活動内容…事前学習として建築家で福井美術の会会長でもある 赤土善藏氏からジャンクアートの巨匠 小野忠弘氏、アートディレクターの戸田正寿氏について講演をいただき、小野氏や戸田氏の人物像や業績について学んだ。ONO MEMORIAL の見学では小野氏の様々な作品に触れ、Brilliant Heart Museum の見学では、戸田氏から作品について直接説明を受けた。ヒナタカコ氏、岡田健志氏の授業では、本校出身のお二人から、高校時代のことやご自身の経歴を紹介していただいたいただき、講演を通じて三国に対する愛情を感じた。



⑤三国のイマを盛り上げる人材

活動内容… 1、2学期の学習では、三国に縁があり、様々な分野で活躍してきた方々のお話を聞いてきたが、3学期は今の三国を盛り上げている人材にスポットを当て、生徒たちの実生活につながる方々に講演をしていただいた。講師として山崎大和氏、西友規氏、下村禎勝氏、畑和也氏、小島まりや氏、木谷拓未氏、北野翔聖氏の7名を招いた。各講師は三国町内で出店や営業を行っていたり、伝統文化に関わったりしている方で、生徒が事前に考えたさまざまな質問を投げかけ、お仕事や三国とのつながりについて語っていただいた。



3年生

○グループ研究「三国の文化資源 プロモーションビデオ」作成

本年度、3年生はグループ研究に取り組むことになり、2年次に「三国の文化資源探究」で学習した内容について、今後この授業を受講する下級生(または三国のことを知らない人)に、自分たちが学んだことをわかりやすく映像を通して伝え、三国の文化資源の奥深さを感じて関心を持ってもらうことを目的として、「三国の文化資源 プロモーションビデオ」を作成した。2年生の3学期から準備を始め、作成したPR動画をもとに2年間の探究活動について11月に最終発表会を行った。

①ビデオ作成

○内容面

三国の伝統・文化、三国の食・物産、三国の寺院・古墳・建築等、三国の作家や芸術家、北前船交易・寄港地の中から少なくとも2～3分野について取りあげ、学んだことをフルに

生かして、伝えたいことが十分に伝わる内容とした。また、単に写真や映像を並べ、説明をくっつけただけの動画で終わることがないようにし、自分たちが調べたり、インタビューをしたりして知った興味深い情報や、文化資源同士の新たなつながりを示すなど、深掘りしたことが分かるようなグループ独自のコンテンツになるようにした。

○作成の条件

長さは10分程度とし、動画、静止画、音声、キャプション、エフェクト等を使って作成する。動画や静止画は現地に行って撮影し、編集も含め各自のスマートフォンの利用を可とした。全体のスタイルは教育番組風、ドキュメンタリー風、観光案内風、ぶらり旅風など、自分たちが10分間見ても飽きないものになるよう工夫をした。

○生徒たちの活動

各グループが協力しながら、自分たちでアポを取り、授業時間や休日を利用して三国の街中や目当ての店舗などを訪問し映像を集めた。中には提灯作り体験を行い、製作をしながら店主にインタビューするグループもあった。集めた映像にキャプションを載せ、吹き込んだナレーションを挿入して編集を行った。

②クラス内発表会

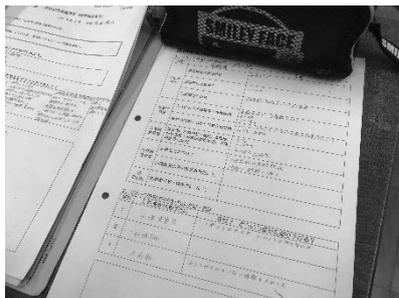
各クラスでグループごとに発表し、生徒と教員が評価を行った。発表ではPR動画を再生し、スライドを使って動画作成やこれまでの探究活動を通して考えたこと、新たに持った課題等についてプレゼンを行った。PR動画とプレゼンを評価し、最も評価が高かった2グループが最終発表会で発表をすることにした。

③最終発表会

各クラスで選ばれた2グループ計4グループが発表を行った。聴衆として受講している3年生だけでなく、2年生の文化資源探究受講生も参加し、本年度や来年度の活動の参考になるような形にした。当日は福井大学の先生、県内高校教員、市役所の職員、地域のコミュニティーセンターの方にもご観覧いただいた。PR動画のクオリティーや生徒たちの探究の成果に感銘を受けた方が多かった。福井大学の木村優先生からは、発表者の生徒たちが「三国の魅力が伝わっていない」という課題意識を持ち、なぜ、どういう点が伝わっていないのか調べていくことで分かったこともあったが、そこからさらに新たな疑問を持たせた点に触れ、疑問を持つことが探究学習支えている部分であり、探究を進めていく上で大事な部分を3年生たちは経験できたのではないかとご高評をいただいた。

〔発表グループと内容〕

発表グループ	発表テーマや内容（取りあげた項目）
3組Aグループ	三国タイムトラベル（三国祭・旧森田銀行・旧岸名家・戸田正寿氏）
3組Eグループ	三国祭と提灯作り（三国提灯いとや）
4組Dグループ	ぶらり三国の旅（旧岸名家・三国の詩人：三好達治他）
4組Eグループ	みくに紹介コーナー（三国祭・甘えび・三国港市場）



(5) 事業の総括と今後に向けて

開講2年目を迎え、地域の方や企業、団体の温かな支援をいただき、2年生の授業では前年度以上の活動ができた。先生方も単純に前年度の踏襲とならず、どういう工夫を加えれば生徒たちがさらに地域のことに興味を持つようになるか真剣に考えて授業案を練っていた。特に3学期から新たなテーマ「三国のイマを盛り上げる人材」を設け、今三国の町で頑張っている人材にスポットを当て、生徒とつなげることで、近いところでの三国の魅力や三国での生き方を知る貴重な学びになったと思う。

3年生についても地域の方々のご厚意により活動をスムーズに進めることができた。「三国の文化資源×PR×動画」をコンセプトにグループ研究を行うことで、自分たちが感じていた課題に対する最適解を動画という形で表現でき、さらに新たな疑問も生まれ、拙いながらも探究活動を経験することが出来た。最初はなかなか主体的に動けず、こちらの指示で活動するだけだったが、徐々に自主的に地域に出てインタビュー取材をして情報を集めるグループが出始め、グループ内で動画の編集について意見を出し合って話し合う姿が見られた。既視感がある動画も散見されたが、振り返りの内容から自分たちで考えて行動し、一定の成果物が出来上がったことに達成感を感じる生徒も多かった。

来年度からはいよいよ自走することが求められる。地域と良好な関係を築けてきたことは活動にとってかなりプラスに働いている。ただ、フィールドワークのための輸送費や受講するクラスが増えることによる見学先や訪問場所の調整など課題は少なくない。本校の特色である地域と協働による教育活動の大きな部分を占める授業なので、教員全体で取り組んでいける持続可能な体制や仕組みを作る必要がある。

3-2 三国の環境資源探究

(1) 事業の概要・目的

令和3年度から先行して実施された学校設定科目「三国の文化資源探究」に続き、本年度はⅡ系列理系の2年生と3年生が、環境や食・農業をとおして、地域の特徴や課題、さらには広い範囲での課題について考える科目として、「三国の環境資源探究」を開講した。本年度の2年生は2年次1単位+3年次1単位、3年生は2単位で、理科、数学科、保健体育科の教員が地域の環境資源についての単元を分担し、「講義→見学・実習→レポート・発表→ふりかえり」をサイクルとして学習を進めた。地域の環境資源について知識を深めるとともに課題意識をもち、その解決に向けた意欲や態度の育成をめざした。

(2) 事業計画

3年生

分野	月 日	学 習 活 動
ガイダンス	4月13日	「三国の環境資源探究」についてのガイダンス
① エネルギー	4月14日	「日本のエネルギーと再生可能エネルギー」(講義:北陸電力(株)福井支店 峯森大輔氏 他1名)
	4月20日	太陽光発電所、風力発電所見学(三国太陽光発電所、三国風力発電所 案内:北陸電力(株)峯森氏他1名)
	4月27日 ~5月11日	まとめと探究活動(講義と見学内容をまとめ、興味・関心があるテーマについて探究し、発表の準備をする。(以下各単元同じ))
	5月12日	エネルギー発表会(助言:北陸電力(株)峯森氏他1名)
② 水の浄化	6月1日	「水の浄化(下水道について)」(講義:福井県下水道公社 前田洋氏 他2名)
	6月9日	下水処理施設見学(九頭竜川浄化センター 案内:2名)
	6月15日 ~22日	まとめと探究活動
	6月23日	水の浄化発表会(助言:下水道公社 前田氏他1名)
③ 海洋環境保全	6月29日	「海洋環境保全」(講義:福井海上保安署 富岡学氏 他3名)
	7月6日	海上保安署施設、巡視船見学(海上保安庁福井海上保安署、巡視船 案内:3名)
	9月7日 ~14日	まとめと探究活動
	10月19日	海洋環境保全発表会
④ マイクロプラスチック	9月21日	「マイクロプラスチックを学ぶ」(講義:福井大学 織維・マテリアル研究センター教授 山下義裕氏)
	9月22日	「マイクロプラスチックを体験」(実験・観察1 指導:福井大学 山下氏)

④ マイクロプラスチック	9月28日 29日	まとめ1
	10月6日	「マイクロプラスチックを調べる」(実験・観察2 指導:福井大学 山下氏)
	10月20日 ～26日	まとめ2と探究活動
	10月27日	マイクロプラスチック発表会(助言:福井大学 山下氏)
⑤ 水族館	11月2日	「水族館における海洋生物の調査保護活動や繁殖活動」(講義:越前松島水族館館長 鈴木隆史氏)
	11月9日	越前松島水族館 バックヤード・業務の見学(案内:2名)
	11月10日	発表資料作成
	11月17日	水族館発表(レポート発表)と課題研究ガイダンス
⑥ 課題研究	11月24日	テーマ設定と面談
	11月30日 ～1月11日	各自のテーマで探究活動と発表資料作成
	1月12日	課題研究発表会

2年生

分野	月 日	学 習 活 動
ガイダンス	4月18日	「三国の環境資源探究」についてのガイダンス
① エネルギー	4月25日	「日本のエネルギーと再生可能エネルギー」(講義:北陸電力(株)福井支店 峯森大輔氏 他1名)
	5月9日	太陽光発電所、風力発電所見学(三国太陽光発電所、三国風力発電所 案内:峯森氏他1名)
	5月23日 ～6月13日	まとめと探究活動(探究は個人で。テーマと進め方は、指導教員と面談)
	6月20日 27日	エネルギー発表会、リフレクション(助言:6/20 峯森氏他1名) (以下各単元同じ:スライド発表、相互評価と自己評価)
② 水の浄化	9月12日	「水の浄化(下水道について)」(講義:福井県下水道公社 佐川隆紀氏 他2名)
	9月26日	下水処理施設見学(九頭竜川浄化センター 案内:2名)
	10月3日 ～31日	まとめと探究活動
	11月7日 14日	水の浄化発表会とリフレクション
③ 農業	12月12日	「三国(坂井・あわら)地域の農業の今とこれから」(講義:福井県立大学生物資源学部教授 森川峰幸氏)

③ 農業	1月16日	県立大学あわらキャンパス農園等見学（生物資源学部 創造農学科 研究施設・農園等 案内：1名）
	1月30日	地域の先進農家・畜産家から聞き取り（講師：田中農園 （株） 田中勇樹氏、三つ星（株） 富田美和氏、（有） サンビーフ齋藤 齋藤力氏（体調不良で当日欠席）
	2月6日 ～20日	まとめと探究活動
	2月27日 3月13日	農業発表会とリフレクション

（４）事業実績紹介

①エネルギー（３年生、２年生）

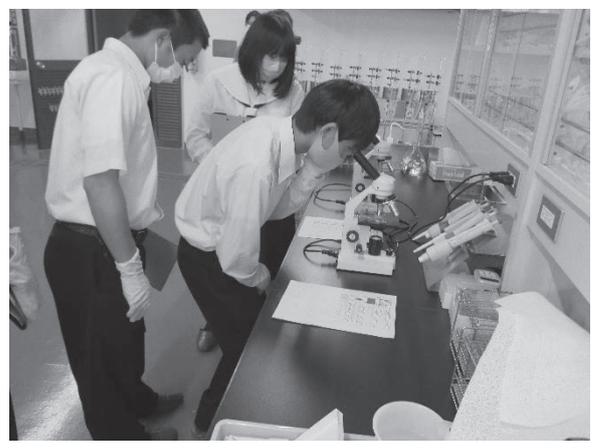
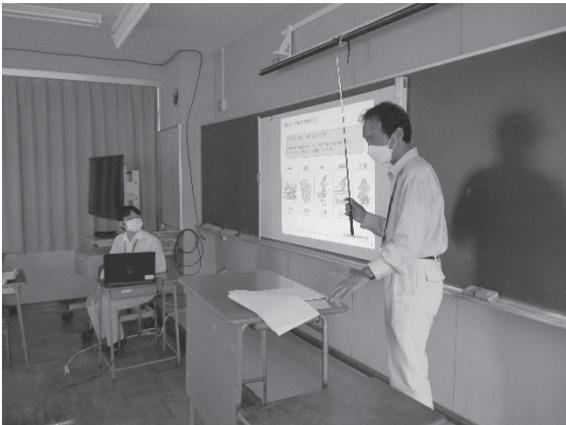
活動内容…日本のエネルギー事情と再生可能エネルギーについて、講義と発電所見学、探究活動（調べ活動）、発表を行った。地域の工業地帯（テクノポート福井）には火力発電所に加え、太陽光発電所と風力発電所がある。太陽光発電所は設置が増え、風力発電所も新しい計画もあるが、その効果や課題はあまり認識されていない。間近で巨大な施設を見学しながら、コストや発電効率、地域に与える影響などを電力会社の担当者から説明を受けた。他の発電方法も含めて、特に再生可能エネルギーの可能性と課題について考えた。探究活動は３年生では２人一組、２年生は各自で行った。やや長期の探究活動になった２年生では、テーマと進め方について指導教員と面談で確認しながら進め、発表では様々な発電方法と活用について、独自のアイデアを盛り込んだ発表が見られた。





②水の浄化（3年生、2年生）

活動内容…生活排水や雨水の浄化について、地域の下水道の流れと処理を、講義と処理施設見学で学んだ後、探究活動（調べ活動）と発表を行った。河口付近に位置する三国地域には下水道処理施設である九頭竜川浄水センターがある。施設を訪問して浄化設備（沈殿池等）を見学し、実験室では河川周辺のpH測定、化学的酸素要求量測定、紙の溶解実験と沈殿池内の微生物の顕微鏡観察を行った。下水道の流れ、微生物による下水処理、処理済み汚泥の活用など新たな発見が多く、水環境の維持について考える機会となった。探究活動後の発表では、汚泥肥料の活用、雨水の活用、微生物の役割の深掘りなどいろいろな視点からの発表が見られた。





③海洋環境保全（3年生）

活動内容…近海の環境保全（海洋ゴミやオイル流出対策）について、講義と海上保安署および巡視船の見学後、探究活動（調べ活動）、発表を行った。テクノポート福井の港には海上保安庁福井海上保安署があり、福井県北部沿岸の保安活動と海洋環境の保全活動を行っている。講義では海上保安署の活動内容を聞くとともに、pH測定等も行った。海上保安署と巡視船見学では実際の設備を見学しながら、オイル流出事故とその対応、海洋ゴミの深刻さや生活排水が海に与える影響などを学んだ。先の「水の浄化（下水道）」とあわせ、日常生活でできる環境配慮について考え、発表を行った。



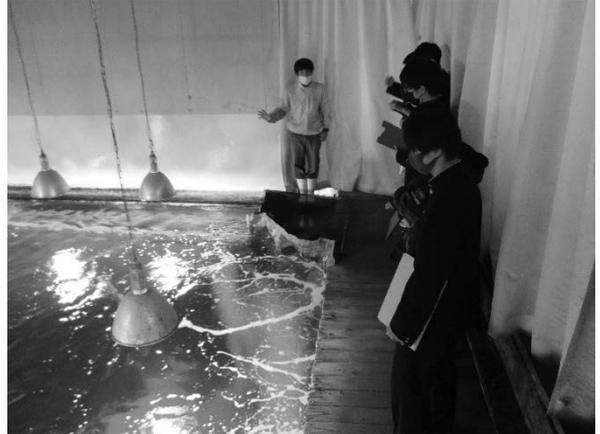
④ マイクロプラスチック（3年生）

活動内容…②水の浄化、③海洋環境保全に続き、マイクロプラスチックを講義と実験で理解し環境保全について考えた。海ゴミ、マイクロプラスチックの作り方と発生源、人体への影響、発生防止について学び、その後実験・観察を行った。洗濯機のフィルター、路上のタイヤかす、河口のゴミからマイクロプラスチックを抽出し、顕微鏡や分析器で観察した。これまで考えてきた海洋ゴミと環境保全を、科学的視点から捉えることができ、今後、対策の発想へと進む第一歩となった。なお、実験・観察は福井大学 山下義裕教授が機材等を本校化学室に持ち込んだり手配してくださったり、普段では扱えない分析器などが体験できた。



⑤ 水族館（3年生）

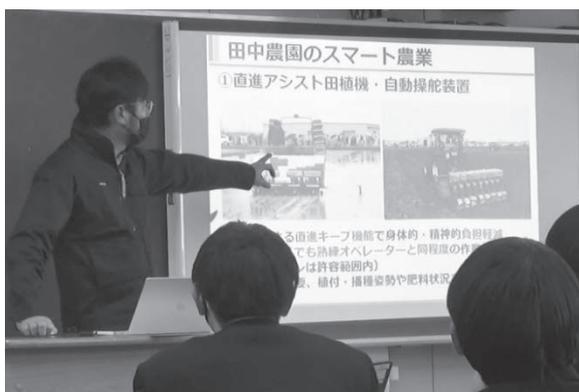
活動内容…水産業に係る研究施設は地区内にはないが、海洋生物の調査、保護・繁殖活動の拠点として「越前松島水族館」がある。近海の海洋生物の特徴と水族館の活動を、講義とバックヤード見学から学んだ。講義では、これまで考えてきた海洋ゴミの生物への直接的な影響などについても学んだ。海とともにある三国地区で生活する生徒にとって、調査活動や保護・繁殖活動の大切さを考える機会となった。短期間のため、発表はポスター発表で行った。



⑥ 農業・畜産業（2年生）

活動内容…三国を含む坂井あわら地区は、県内でも農業・畜産が盛んな地域である。地域の農業研究の拠点の一つである福井県立大学生物資源学部創造農学科から講師を招き、地域の農業・畜産業の特徴や課題を聞き、また同学科のあるあわらキャンパスを訪れて研究設備や実験農園等を見学した。さらに、地域の先進農家3事業所（当日 体調不良で2事業所）から講師を迎え、グループに分かれて質問などを行い、その後各自の探究活動を行った。





⑦ 課題研究（3年生、発表会は2年生も参加）

活動内容…これまでの本科目の活動を踏まえて、環境資源に関する課題を各自で設定し探究した。生徒2名に指導教員1名が付き、テーマ設定と研究の進め方については面談等をして進めた。発表は1月16日(木)6限目に会議室にて、スライドを用いて行い、2年2組（理系）の生徒や教職員も参加した。質疑応答も活発に行なわれ、環境資源への理解を深め共有した。

発表テーマ（発表順）

- 1 自給自足 家で簡単ヒラメ養殖
- 2 下水処理について
- 3 マイクロプラスチック
- 4 都市鉱山 日本の都市に眠る貴金属
- 5 地球温暖化を抑制するために日本で行われていること
- 6 三国の海に流れ着くプラスチックの漂着物について



⑧ その他（3年生）

「海洋ゴミに関する若狭高校との情報交換（オンライン）」

活動内容…12月9日（金）の放課後約1時間、若狭高校と「海洋ゴミ・マイクロプラスチック」についての情報交換をオンラインで行った。この情報交換会は、県の探究コーディネーターである上山康一郎氏（前本校校長）の仲介を頂いた。本校からは、マイクロプラスチック等について課題研究を進めていた3年生2名と担当教員、若狭高校からは海洋科学科の2年生4名と担当教員、および上山氏が参加した。約10分ずつ、それぞれの活動や研究の様子などを紹介し、その後相互に質問と情報交換を行った。若狭湾での先行研究の様子、地域によるゴミの様子の相違点、ゴミ削減の啓発活動など、大変有意義な情報交換会となった。



（5）事業の総括と今後に向けて

開講初年度であり、3年生が2単位で単元を開拓し、2年生がそれを参考にして1単位で深める方法を模索しながら進めた。「環境資源」という題材は三国町に限定することは難しいが、三国町および坂井市、さらに坂井・あわら地区は、河川と海、平野と丘陵地、工業地域と様々な環境を有し、環境保全と海洋生物、農業・畜産業、再生可能エネルギー等が身近で学べるという恵まれた地域である。地域の特徴と課題、さらに広い範囲で環境資源について、「これまでと今」から「これから」を考えることができた。外部の連携先も、地域の事業所、大学、公共施設とやや大きい範囲での連携となった。

今年度は3年生6名、2年生18名という選択科目での実施であり、見学、探究活動、発表と少人数で活動できた。課題として、来年度の2年生からは理系全員で50名を超える生徒が受講することになるため、各単元の探究を各生徒がいかに深めていけるか、その場面設定や支援の仕方を検討することがある。講義や見学前の事前学習のあり方、まとめ方などが話題に上がっている。さらに、今年度は水の浄化、海洋環境保全、水族館、マイクロプラスチックと、海洋環境の単元が多く内容の重複もあった。単元内容を整理して再構築すると、さらに良い内容になると思われる。

三国町（坂井市）は、文化、環境ともに豊富な資源がある。文系、理系という区分に縛られず、地域について知っておくと良い内容や理解したい内容もある。学校設定教科と総合それぞれの充実しながら連携と分担を進めると、生徒にとってさらに有意義な地域探究になるものと思われる。

第4章 地域探究同好会「地究」の活動（ワクワク未来考場）

令和2年度より、地域にある資源を活用して地域活性化に資するプロジェクトを地域人材と協働で実施することを通して、当事者意識を持って地域の未来を創造することのできる人材を育成するために同好会を立ち上げ活動している。令和4年度は1年生10名、2年生12名、3年生9名の31名が入会し、地域貢献・地域探究をモットーに活動に取り組んだ。本年度は新型コロナウイルス感染症予防による行動制限が一部緩和され、対面で実施できた活動が比較的多かった。また、令和4年度はコーディネーターの方にも活動に参加していただいた。活動の計画・立案から関わっていただき、生徒たちが自主的に動けるような活動を提供してくださった。本年度に行った主な活動のみ時系列にまとめて記載した。

5月20日 『三国祭ボランティア』 54名参加（うち同好会9名）

12:00～18:00 三国市街

ボランティアとして地域探究同好会のメンバー9名とその他有志45名の計54名が参加した。本年度は例年並の祭の規模に戻り、3年ぶりに山車が7基巡行した。生徒たちは山車曳き、三国駅での万寿配り、法被でハッピー（来客者の法被姿を撮影する仕事）などに分かれて活動を行った。昨年度のボランティアの参加者は19名だったが、本年度これほどの人数の生徒が参加したのは、日頃の地域探究学習（活動）の影響が大きかったのではないかと思う。生徒たちは祭を継承する手助けを行いながら、思い思いの形で三国祭を楽しんでいた。



6月8日 放課後 『三田国際学園中学校とのオンライン交流』 3名参加

令和3年度の3月に三田国際学園中学校の生徒12名が、9月の修学旅行時に三国で行う探究学習発表会の事前調査として三国町を訪れ、同好会の生徒と交流を行っている。その時に調査し

たことを探究学習のテーマとして設定する上でアドバイスが欲しいということで、同好会の3名の生徒がオンラインで中学生たちと意見交換を行った。

7月29日 午前 『オープンスクールでの説明会（探究学習・同好会について）』 4名参加
中学3年生向けのオープンスクールで、ブースを設け同好会の生徒4名が、1年生の空き家活用プロジェクト、2年生の三国の文化資源探究、三国の環境資源探究、同好会の活動について説明した。発表用のスライドからセリフまで各自で考えて作成し、実際に行った活動やその魅力を来場した中3生に伝えた。中学生が真剣に聞き入っている様子を見て、三国高校の特色である探究活動に興味を持ってもらえたのではないかと感じた。



9月14日（午後）、15日（午前） 『三田国際学園中学校との交流』 22名参加

三田国際学園中学校の生徒が修学旅行で坂井市を訪れ、2日間に渡り滞在し、そのうち2グループが三国で地域の課題解決の提言発表を行った。初日は同好会の2年生の生徒が、中学生や地域の方と一緒に三国の街中を散策し、三国の魅力あるスポットを紹介しながら写真撮影の手助けを行った。2日目は同好会の1年生が三国コミュニティーセンターで中学生と一緒に、地域の人たちが三国の魅力をもっと発信できるように、インスタグラムの使い方を教える活動を行った。撮影した写真に魅力的なメッセージを載せて投稿する方法を、中学生や地域の方と一緒に考えアイデアを出し合った。生徒たちがお互い会うのはその日が初めてだったが、活動終了時には打ち解け、連絡先を交換していた。三田国際学園中学校の生徒は都会にない田園的な風景に魅力を感じ、本校生徒は東京の都会生活に憧れを感じていて、お互い「ないものねだり」をしているところが非常に印象に残った。

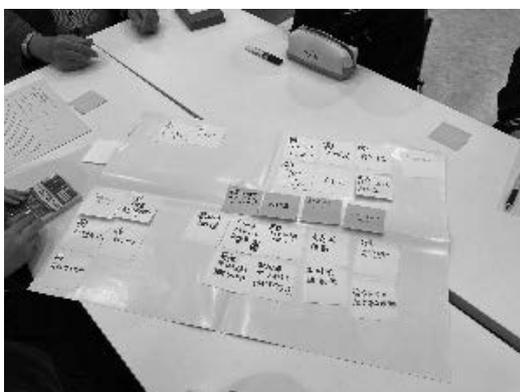




9月20日、10月28日、2月20日 放課後 三国コミュニティセンター

『みくに大好きプロジェクト会合』 22名参加

三国には「みくに地区まちづくり協議会」があり、その一部会である「みくに大好き部会」の方たちが、これからの三国をさらに盛り上げる企画を考えていく「みくに大好きプロジェクト」を立ち上げ、そこに高校生も参加している。直近の会合では、三国を好きになり何度も来てもらうためにどうすべきか、歴史、自然、文化などの観点から地域の方に交ざって意見を出し合った。地域の大人と話す機会を持てるのは大変貴重であり、地域のことを真剣に考え、意見を出して理解してもらえれば自信が持てるようになり、コミュニケーション力の向上も期待できると考えている。この活動は来年度も継続していく予定である。



10月15日 午後 『ハッピーハロウィン』 1年生10名参加 空き家「吉野家」

みくに地区まちづくり協議会の「みくに大好き部会」が毎年開催している小学生向けのイベントで、子どもたちが三国湊周辺の店舗等を回りクイズを解いていく。昨年度は受付や仮装して会場の整理をするだけの活動だったが、本年度は空き家の「吉野家」に三国高校地域探究同好会としてクイズのブースを設け、仮装をして小学生にクイズを出し景品を渡す活動を行った。クイズの答えのヒントを写真にして掲示し、解答について小学生と楽しげにやりとりしていた。



11月23日 午前 『坂井地区探究活動交流会』 20名参加 三国高校(緑陵会館)

坂井地区の4高校(三国高校、金津高校、丸岡高校、坂井高校)の生徒が集まり、各学校が取り組んでいる探究活動について発表を行った。各学校が地域の方と協働し、地域の特性を活かした非常に個性的な探究活動に取り組んでいることが分かった。他校の発表を聞くことで、今後の自分たちの活動に活かせる部分をたくさん共有できた。その後、グループに分かれて意見交換会を行い、各々の生徒が自校の様子を語り、皆が真剣に聞き入っている様子が印象的であった。生徒たちの事後の感想から、他の学校の取り組みが知れて自分の取り組みの改善点が見つけれられたなど、他校との交流が有意義だったという内容が多かった。





1 学期末～3 学期終了 『3 グループに分かれての活動』

本年度より、コーディネーターの方に同好会の活動に関わっていただいている。その中で、生徒たちが自分たちで主体的に動けるように、コーディネーターから活動案を出していただき、自分がやってみたい活動に参加する形をとった。最終的に3つのグループに分かれ、生徒たちは「メモリーハンティング班」「えちぜん鉄道応援プロジェクト班」「三国祭プロ養成班」のいずれかで活動することになった。

「メモリーハンティング班」は昔の三国の風景の写真を集め、その場所の現在の様子を写真に撮って比べ、どう変わったか、なぜ変わったのか考える活動を始めている。その写真を活かしてフォトゲイニング（地図と昔の写真をヒントに今現在の写真を撮ってくる）というイベントを来年度の5月に行う計画を立てている。

「えちぜん鉄道応援プロジェクト班」は地元の私鉄である「えちぜん鉄道」と協力して駅舎の美化や装飾等を考えて提案し、実践する予定である。今現在は、無人駅の駅舎に三国の魅力ある風景の写真を展示する活動が進行中である。

「三国祭プロ養成班」は三国祭の山車作りを中心に、祭に関する内容を掘り下げて、伝統を継承していく手助けを行う活動に取り組んでいる。山車の人形作りに参加してもらい、活動している方からお話を聞くことが出来た。

自分の興味があるグループに分かれたことで、主体的に活動する生徒が増えてきている。今後、大人（教員・コーディネーター・地域の方）の支援も得ながら、各自の活動を進めていくことで、成功体験を積み重ね、さらに自分たちからやりたいことが見つけて、活動が発展していくことを願う。



第5章 各教科での活動（家庭科）

令和2年度より、三国町の伝統文化「安島モッコ刺し」（刺し子）についての理解と継承活動を行ってきた。「安島モッコの会」代表の森岡千代子氏、坂野上百恵氏より講演や実技講習をしていただき、伝統文化への理解を深めてきた。

令和2年度は、三国町で刺し子文化が根付いた経緯や北前船との関連について知り、実際に作品製作に取り組んだ。令和3年度は、1年生全員が北前船をテーマに自分でイメージした柄を刺し子で表現し、それを三国高校卒業生でアートディレクターとして世界で活躍されている戸田正寿氏に監修して頂き「三国高校 現代刺子展」を ONO メモリアルにて開催した。また、取り組みを通し、刺し子文化とSDGsとの関わりに気づき、地元の雄島小学校にて「刺し子とSDGs」と題した出前授業を行った。

今年度は、1年生全員が安島モッコ刺しの針山を製作した。規則性に従って一針一針丁寧に針を進めると模様が浮き出てくることに驚きと喜びを感じながら製作した。作品を通し、より多くの方々に地域文化を知ってもらえるよう保護者会で展示をした。また、昨年度の「三国高校 現代刺子展」で展示をした縦4.25m×横2.8mのタペストリー3枚を、9月の駅前広場完成に合わせ、えちぜん鉄道三国駅に展示していただいた。駅を利用する多くのお客様に刺し子について知ってもらえる好機となった。

刺し子してます



針山できました



みんなで記念写真



保護者会で展示



三国駅



10月1日（土）鯖江市東公園で行われた「めがねのまちさばえSDGsフェス」に参加した。

地域文化である「安島モッコ刺し」の学習を通し、モノを大切に無駄なく長く使う心と技はSDGsの「目標12. つくる責任 つかう責任」につながると実感した。そこで、刺し子を通してSDGsについてより多くの方々に知っていただきたいと思い、安島モッコの会と合同で出展することにした。

手作り絵本を使った説明や刺し子を施したマスコット販売、刺し子体験を実施した。絵本での説明には、一般の方だけでなく企業や団体の方々も興味を持って聞いてくださった。また、小さいお子さんがマスコットを購入してくださったり、地元の小中学生や県外からお越しの方が刺し子体験をしてくださったりと、多くの方々に来ていただき「安島モッコ刺し」の魅力を伝えることができた。

チラシ



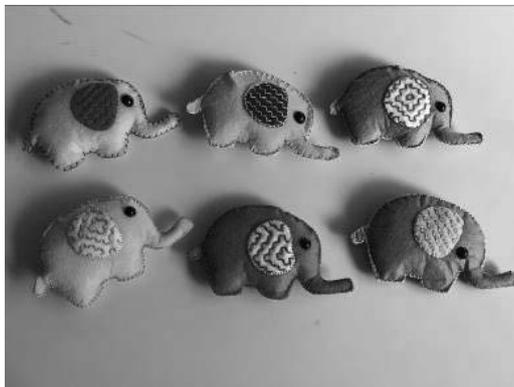
看板



制作した絵本



手作りして販売した「ゾウさん」マスコット
(耳に「安島モッコ刺し」しました)



フェス当日 (絵本で説明)



マスコット売れました



テレビ局の取材を受けました



刺し子体験で先生しました

